

特別支援教育  
シリーズ

第1集

# 一人にひかり みんなのかがやき

特別支援学級からの発信



平成19年(2007年)1月  
長野県教育委員会

## 自律教育から 特別支援教育へ

---

「特別支援教育」とは、児童生徒の自立や社会参加に向けて、一人一人の教育的ニーズに応じて特別な教育的支援を行うことを意味しています。

文部科学省においては「特別支援教育」という名称が、全国的にも広く浸透した状況を踏まえ、学校教育法を改正し、平成19年4月1日から「特別支援教育」と規定されることになりました。

長野県としても、より前進した特別支援教育への取り組みをすすめていく立場を明確にするとともに、学校教育法と同一の名称を使用し、極力混乱を招かないようにする方向です。

そこで本書においても、その周知のために従来の「自律教育」を「特別支援教育」に変えて使用します。

---

特別支援教育シリーズ第1集は、  
長野県教育委員会のホームページにすべて掲載します。

.....  
<http://www.nagano-c.ed.jp/kenkyoi/>

# はじめに

特別支援教育をより一層推進するため、学校教育法等の一部が改正され、本年4月1日より施行されます。法制度の上からも特別支援教育への転換が図られることとなります。

## 一人の支援から始まる特別支援教育

これまでの自律教育シリーズは、特別な教育的支援を要する児童生徒についての指導内容や指導法の工夫などをまとめた校内支援体制整備の手引書・事例集であり、ガイドラインとして各学校で広く利用されています。

自律教育シリーズ第3集では、自律教育コーディネーターを中心にした校内支援体制づくりの課題を乗り越えるために、「チーム支援」をキーワードに校内支援体制づくりの実践上の工夫などの事例を示しました。通常の学級における児童生徒への指導や対応にも一人一人に応じた自律教育のノウハウを生かした実践や、全校で取り組んでいる支援において自律学級担任の関わりや役割が事例のいたるところに記されています。

これは自律教育で培われてきた一人一人への支援の在り方が、校内支援体制の中核になるということ物語っていると思われまふ。学校全体で取り組む特別支援教育では、これまでの自律教育の実践を積んできた特別支援学級の存在と役割が非常に大きくなっています。

## 特別支援学級からの発信

障害のある子もない子も一人一人が輝く学校づくりのために、各学校では校内支援体制をすすめています。今こそ特別支援学級の実践を発信し、中核となって学校全体で特別支援教育を推進する<sup>とき</sup>代がきています。

そこで特別支援教育シリーズ第1集では、各学校における特別支援学級の充実を願ひ、学級運営や授業の実際などの実践事例を取り上げました。特別支援学級未設置の学校にあつても特別な教育的支援を要する子どもたちへの支援の参考になることと思われまふ。

掲載した内容は、特別支援学級担任の不安に答える視点から学級運営や授業づくりの基礎的な課題に寄せた事例、全校で取り組む校内支援体制の視点から保護者や原学級・外部機関との連携などのチーム支援の事例をまとめています。

この特別支援教育シリーズ第1集をご活用いただき、特別支援学級からの発信が障害のある児童生徒の様々な学習の場に広がり、やがては全ての子どもたちが生き生きと生活できる学校づくりに生かされることを願っております。

平成19年1月

長野県教育委員会

はじめに	1
目次	2
一人にひかり みんなのかがやき	6

## I 特別支援学級はじめの一步

事例 1	初めて特別支援学級を担当する先生へ（小学校） ～自らの心を開き，明るい人間関係をを作ろう～	8
事例 2	元気はつらつ楽しい学級（小学校） ～特別支援学級からの発信を～	10
事例 3	子どもが生き生きと生活する毎日を願って（小学校） ～生活単元学習を中核とした生活づくり～	12
事例 4	見通しをもって活動に取り組む生活単元学習の工夫（中学校） ～生徒たちがめあて意識をもち，まとまりのある生活になることを願って～	14
事例 5	一人一人が育つ生活単元学習（小学校） ～明確なねらいのもとに子どもの姿を記録して～	16
事例 6	保護者と共に作成する個別の指導計画（小学校） ～その子らしさ・よさを保護者と共有して～	18
事例 7	将来への願いの実現に向け，今を考えよう（小学校） ～個別の指導計画の活用と将来を意識した生活づくり～	20
事例 8	「個別の指導計画」を生かした中学校での生活づくり（中学校） ～保護者と共に計画，評価を重ねながら～	22

---

事例 9	子どもの願いや課題に合わせた教材の工夫（小学校） ～音楽での学習を通して～	24
事例 10	その子に合った視覚的な支援のヒント（小学校） ～子どもの意図をくみ取ることを大切にしながら～	26
事例 11	子どもの主体性を重視した総合的な学習の時間の工夫（中学校） ～「つける力の明確化」と「学習展開の工夫」～	30
事例 12	教室環境の工夫（中学校） ～子どもの悩みに寄り添うことを通して～	32
事例 13	時間割の改善（中学校） ～生徒の力を伸ばす時間割づくり～	34
事例 14	中学校の進路学習の進め方（中学校） ～体験学習を積み重ねて主体的に進路選択～	36

## II チームで支援する特別支援学級

---

事例 15	原学級でも自分らしさを（小学校） ～原学級とのかかわりを深めながら～	38
事例 16	安定した気持ちで行事に参加することを願って（小学校） ～原学級担任と情報を共有しながら～	40
事例 17	効果倍増！原学級担任との協同支援（小学校） ～個別の指導計画作成段階から原学級担任とともに～	42
事例 18	保護者の思いに共感する大切さ（小学校） ～保護者への支援を～	44

---

事例 19	保護者に学ぶ（小学校） ～お母さんはその子についてのプロフェッショナル～	46
事例 20	校内の連携を大切に（中学校） ～連絡カードを活用した授業者間の情報交換～	48
事例 21	積極的な情報交換（中学校） ～気楽にミーティングを～	50
事例 22	校内支援体制の充実に向けて（中学校） ～ケース会議で生徒理解を深める～	52
事例 23	時間いっぱい授業に参加できるように（中学校） ～スクールカウンセラーの助言を生かした支援～	54
事例 24	連携で得た情報を学校生活へ（小学校） ～保護者，医療，福祉機関の方との連携～	56
事例 25	効果的な医療との連携（小学校） ～学校での記録をもとに医療機関と支援について考えていった事例～	58
事例 26	子どもへの理解を深めながら行う進路選択（中学校） ～外部機関の利用や体験入学を通して～	60
事例 27	小学校と中学校をつなぐ交流会（中学校） ～安心して中学校に進学するために～	62

◆特別支援教育の推進のための学校教育法等の一部改正について

◆支援情報

特別支援教育相談

障害者総合支援センター

自閉症・発達障害支援センター

## 平成18年度研究委員会

各事例には、自律教育シリーズ第1集、第2集、第3集の関連ページを記載してありますので、併せてご利用ください。

# 一人にひかり みんなのかがやき

## こんな悩みに思い当たる先生方は、いませんか？

- ・「子どものことを誰かに相談したいけど、話せる人がいない。」
- ・「一人をたてれば、一人がたたず。そんなことの繰り返しで、多様な子どもに対応できない。」
- ・「子どもが生き生きと活動しているようにみえない。もっと、充実した学校生活にできないかな。」
- ・「個別の指導計画ってどうすればいいの？」……

## ●「みんなで支援 みんなが笑顔」のために

自律教育シリーズで示されている「みんなで支援 みんなが笑顔」「チーム支援」を合い言葉に、県下の小中学校では支援体制が着実に構築されつつあります。その一方で、学校現場では「児童生徒と対面するのは、やはり担任であるそれぞれの先生方だ」ということを再認識している状況があります。児童生徒との対面とは、「学級経営」であり、「授業」そのものであります。校内支援体制の構築と共に、「学級経営」や「授業」の質を高めることが当然のように求められるのです。

ところが、各校での特別支援教育の一翼を担うべき特別支援学級担任の先生方から、悩みや不安の声がたくさん聞かれてくるのです。上述の  に書かれた悩みは、ここ数年新たに特別支援学級の担任となった先生方が語る言葉や思いです。

そこで特別支援教育シリーズ第1集は、特別支援学級の先生方から聞かれる「悩み」に少しでも応えとともに、各校での特別支援教育への取り組みの参考にしていただければと思います。

## ●特別支援学級からの発信

特別支援教育シリーズ第1集では、現在特別支援学級（学校）担任の先生方の実践や悩みを飾ることなく執筆していただきました。うまくいった事例だけでなく、悩み迷われての実践が数多く含まれています。それぞれの事例に盛り込まれている先生方の苦労、悩み、子どもや保護者に寄り添った気持ちなども併せて読み取っていただければと思います。「こんな場合には、どうすればいいの？」といったハウツーにも対応できるように編集しました。

しかしどの事例を参考にして活用するにしても、それぞれの学級・学校の実態に応じてア



レンジする必要があることと思います。どの学校・学級でも順風満帆に進んでいるわけではなく、日々、学習・実践・試行錯誤の毎日を送っているのです。「悩んでいるのは、自分一人ではない。第1集を読んで明日への意欲がわいてきた」そんなふうにご利用いただければ幸いです。

## 特別支援教育シリーズ第1集

### I 特別支援学級ははじめの一步

「個別の指導計画」「生活単元学習」「環境構築（教材研究、教室環境、時間割）」等を中心に、初めて特別支援学級を担任された先生方や担任されて間もない先生方が悩まれている事柄に応える形で事例を作成しています。多くの学校や特別支援学級で参考になるとと思います。

### II チームで支援する特別支援学級

「チーム支援」をキーワードに、「原学級」「家庭」「校内」「医療・福祉等外部機関」などと特別支援学級との連携の事例を載せました。また、連携の方法だけでなく、連携して得た情報をいかに活用したかをできるだけ具体的に記述するように編集しました。すぐに学級経営や授業に参考となる支援もあります。

※自律教育シリーズ第1～3集の関連ページを事例の中に明記してあります

※近年長野県教育委員会より発刊され、各校に配本されている冊子も参考にしてください。

○自律教育シリーズ 第1集～第3集「みんなで支援 みんなが笑顔」 H16～H18

○特殊教育教育課程学習指導手引書 「指導上配慮を要する子どもの教育課程編成のために」  
基本方針編 一人一人の理解編 指導の実際編（3分冊） H14

## ●一人にひかり みんなのかがやき

掲載されているそれぞれの実践事例にあたっていただくと、一人ひとりの子どもの実態を把握して理解し、自立や社会参加に向けてのニーズに応じた支援を行っていることに気づかれることでしょう。

特別支援教育は、特別な場で特別な教育を行うのではないことは広く認知されてきました。特別な教育的支援を要する子どもたちを対象として学校全体で支援にあたるためには、特別支援学級におけるアプローチのしかたや教育的支援の方法が生きてくるものと思います。

学級の一人の子どもに光りをあて、その子に応じた支援をすることで、やがては学級の子どもたちが輝き、学校全体がきらめくことを期待しています。

# 初めて特別支援学級を担任する先生へ

～自らの心を開き、明るい人間関係を作ろう～

転勤して初めて特別支援学級の担任となったカワサキ先生。学校の中で、自分や学級が置き去りにされているのではないかと孤立感を感じ、悩んでいます。「学級も、子どもも、自分も明るく元気に頑張りたいけれど、どうしたらいいだろう」と思う毎日です。

## ●カワサキ先生の悩み

学級が取り残されているような気がするんだなあ

子どものことをだれかに相談したいけれど、だれに話したらいいんだろう。

初めての学校でわからないことだらけ。だれに聞こうかな。先生たち、みんな忙しそうで、声をかけられない。



カワサキ先生

原学級の先生にしか行事に関する連絡がない。当日にあせることばかり。子どもに事前指導できなかった。

このお便りいつ配ったの？また、うちの学級だけ忘れられた。毎回、言わないといけないのかな。

## ●悩み解消へのきっかけ \*相談できる人を徐々に増やして保健室の先生が声をかけてくれました

カワサキ先生の表情が気になっていた保健の先生が声をかけてくれました。カワサキ先生は思いきって悩みを打ち明けました。相談に乗ってくれた保健の先生はその後、教室に顔を出したり、学級の子どもと遊んだりするなど、気にかけてくれています。

気持ちが軽くなってきたカワサキ先生は、自分から音楽の先生や事務室の先生にも話を聞いてもらいました。今では多くの先生にいろいろな場面で協力してもらっています。

知り合いの先生に勧められ、指導主事派遣の依頼もしました。

## ●悩み解消の糸口 \*学級への理解を広めるために指導主事を活用して

カワサキ先生は、これまでに感じていた様々な悩みを指導主事にも話し、相談に乗ってもらいました。

時間割はどうやって組んだらいいですか？子どもが揃わなくて生活単元学習が組みにくいのですが。

「カズオさん、最近不安定ね。どうしたの？」って言われたけど、支援の仕方が間違っているのでしょうか。まだ学級の子どもとの信頼関係が築けないのです。



指導主事は全職員への指導の中で、カワサキ先生の悩みをもとに、特別支援学級の担任が抱えている悩みや、時間割で配慮してほしいこと等、全校をあげての協力が必要なことなど、担任からは言いにくいことを話してくれました。

## ●できることを自分から始めて

## 学級の様子を積極的に発信しよう

学年会や休み時間。周りの先生方に学級や学級の子どもたちのことをできるだけたくさん話しました。今、課題となっていることや成長の様子を伝え、協力をお願いしたり、アドバイスをもらったりしました。

学級便りを全員の先生に配布しました。「カズオさん、たし算ができるようになったのですね」「この活動はこんな工夫ができそうだね」と、便りを読んだ先生が子どもの成長をほめてくれたり、アドバイスをくれたりしました。

学校のあちこちで、学級の子どもたちに声をかけてくれる先生が増えてきました。

## 自分から声をかけていこう

行事前には、係や原学級の担任にこちらから声をかけ、活動の流れや具体的な動きを確認し、準備を進めました。学年や学校全体がかかわる行事では、学級の子ども一人一人の動きを気にする必要があります。事前にそれぞれの子どもの動きを考えておくことが重要です。

各学年・学級のお便り配布にも気を配り、自分で取りに行きました。口頭でお願いするだけでなく印刷室に貼り紙もしました。

## 先生方へ

お便り、配布物等は、特別支援学級にも忘れずに配っていただきますよう、お願いします。

## どこに何があるか知っておこう

周りが見え始め、心の余裕もできました。生活単元学習の準備を始めましたが、必要な物が教室にはありません。「A先生が知っている」との情報からA先生に教えてもらい、準備を進めました。

その後は機会あるごとに校内を見て歩きました。「先生、ここにこんなものがあるよ」と、子ども達。「これは授業にも使えそうだな…」校内の様子が分ってくるにつれ、子ども達との活動が楽しみになってきました。

## 専門の先生に聞いてみよう

「どんな教材を使えば楽しく授業できるかな？」理科の授業にあたって専科の先生に相談しました。教わった教材を使った授業は子ども達に大好評。

音楽や家庭科についても専科の先生に相談しました。授業に広がり生まれ、何よりも子どもたちが生き生きと活動に取り組んでいます。

畑仕事が得意な校用技師の先生は、鍬の使い方や畝の作り方を実際にやって見せてくれました。子どもたちも、いつも以上に熱心に教えてもらっていました。

## ●そして今… カワサキ先生は外に目を向け、積極的に活動を始めています

積極的に研修会に参加し、先生方に報告します。

教室を空けるのは難しい？いえ、大丈夫。教頭先生や教務主任の先生、原学級の先生が学級に入ったり一緒にできる活動を用意したりして協力してくれます。



子どもたちの大好きなお化け屋敷ができた。原学級の子どもたちを呼んでみよう。隣の学校の特別支援学級の友達も呼んでみよう。



## 共に歩む

相談にのってくれる先生がそばにいたことが、どれくらい安心をもたらすかしれません。思い切ってまずは自分から周囲の先生に声をかけましょう。

校内には様々なニーズのある子どもたちの支援について、悩んでいる先生がいます。こうした先生が孤立感を持たないように、特別支援学級担任の立場からも積極的に声をかけ、一緒に考えたり悩んだりする仲間でありたいと思います。

自分の学級の子どものことも、他の学級の子どものことも、共に支え合い、互いにアドバイスし合うことが大切です。

# 元気はつらつ楽しい学級

～特別支援学級からの発信を～

特別支援学級が校内において存在感のある学級でありたいと願っています。児童生徒一人一人の個性を生かしながら、学級づくりを進めたいのですが、原学級との行き来もあり、学級としてのまとまった活動時間が確保できないこともあります。

特別支援学級の活動が理解されているのかなど、不安になることもあります。校内での存在感を高めるにはどうしたらいいのでしょうか。

## ●ナルサワ先生の悩み

子どもがいる時間がバラバラで、まとまって活動できにくい状況です。原学級の先生方は子どもたちを大事に考え、原学級で過ごす時間をきちんと確保してくれているからこそ、なんですけど…。



教室が他教室から離れ、取り残された感じがしています。学級の子どもたちは気にかけてもらっているのか不安です。担任自身の元気がなくなってしまっている感じがします。

## ●原学級の学年会に参加して



行事をきっかけに、学年会に参加し、これまでに感じていたことを相談しました。話し合う中で、原学級の担任にも悩みや迷いがあることがわかりました。

「原学級の中でも、特別支援学級の子どもを大切にしたいんだ。この子たちの良さをもっとみんなに知ってもらいたいけど、それがうまくいかないんだよ」「特別支援学級の活動を

もっと広く知らせて、他の子どもたちとのかかわりを深めていくことが、お互いが伸びることにつながっていくはずですよ」と他の先生も言ってくれました。

話し合う中で、大切なのは、特別支援学級の活動を全校に向けて「発信」していくことだと互いの考えが一致しました。その後、活動の具体案をみんなで考え合いました。

## ●一人一人の得意なことを生かし、特別支援学級の活動をアピールしよう

### 活動の決めだし

学級活動の発信。それが当面の目標です。どのような活動ができるでしょうか。

子ども一人一人の得意なことを組み合わせながら、すぐに取りかかれそうなこと、繰り返し取り組んでいけそうなことはないでしょうか？

得意なことを出し合う中で、「学級壁新聞作り」のアイデアが浮かんできました。

トモノリさんは絵が得意だよ。絵日記だと毎日ちゃんと書いて来るんだよ。

そう言えば、ヒロキさんは最近デジタルカメラが好きだよ。飼育小屋のウサギの写真とかたくさん撮ってたなあ。





## 活動の構成

絵が好きなトモノリさんの絵日記やイラストと、ヒロキさんが活動の中で撮っている写真を一枚の模造紙にまとめて「今月のニュース」として壁新聞にすれば、学級の学習活動にもなるし、学級の様子を知ってもらうこともできます。

## 活動を進める中で

学習の中心には得意な活動、興味を持っている活動が据えられ、子どもたちはじっくり活動に取り組みます。ナルサワ先生もゆとりをもって、支援に取り組むことができました。

学習の積み重ねは目に見えるものとして次第に変化し、「壁新聞」となっていく喜びがありました。

新聞の内容も少しずつ豊かになりました。

壁新聞を毎回読んでいた他の学級の子どもが「これも載せて」と、4コママンガを持ってきました。

自然な交流も生まれ、活動が発展していきます。

特別支援学級の子どもたちだけでなく、学校のみんが楽しみにしてくれるようになりました。

## 交流の発展から連携の発展へ

壁新聞作りをきっかけに、担任同士の情報交換が盛んになりました。それに伴い、図工の授業に原学級と一緒に取り組み、そこで作った作品の販売会をしたり、合同で調理実習・食事会をしたりと、交流活動も活発に行われるようになりました。

音楽会では、原学級への参加だけでなく、特別支援学級単独の発表もできました。音楽指導に自信のなかったナルサワ先生でしたが、楽器の得意な先生たちがバックバンドをやって盛り上げてくれたのです。



## ●元気が出てきたぞ。楽しくなってきたぞ



まとまった活動時間が確保できなくても、一人一人の得意なことを積み上げていけば、いろんなことができるんですね。ほかの学級の先生方からも関心をもってもらえて、声をかけていただくことが増えました。

自分だけで考えているときは「こんなことやりたいな。でも、できるかな？みんな協力してくれるかな？」と心配が先にたっていました。他の先生方と相談をはじめると、その中から楽しいアイデアがいろいろ出てきて、自分自身がとっても楽しくなってきました。学級に遊びにくる子どもも増え、新しい交流の芽もでてきたように感じます。



## 共に歩む

自分の学級の子どもたちが注目されていないと思ってしまうと、特別支援学級担任の元気は無くなりがちです。そこから抜け出すには、地道な「発信」を継続していくことが近道のようなのです。

最初から全部お膳立てをして、いきなり主役に据えようとするのではなく、小さな発信を日常的に行っていくことで、特別支援学級への注目が増し、校内での存在感が高まっていきます。

特別支援学級が生き生きしてくると、生徒や先生が集まり、自然に次の活動へのヒントが生まれてきます。

# 子どもが生き生きと生活する毎日を願って

～生活単元学習を中核とした生活づくり～

保護者の要望にも応じながら国語や算数など教科学習への個別対応を心掛けていますが、それだけでは、子どもたちの学校生活が、生き生きしたものになっていないと感じています。「めあて意識のもてるまとまりのある生活にしたい」「活気がある充実した毎日にしたい」「生活単元学習に取り組みたいが、どんな活動に取り組んだらいいのだろう…」と悩んでいます。

## ●イシカワ先生の悩み

- 今のままの学習でいいのかなあ。
- 子どもたちは、喜びのある生活を送れているのかな。
- もっと、活気が出るような、生き生きとした学習ができればなあ。



## ●子どもの興味関心を探り、生活単元学習を仕組んでみよう

きっかけ：日頃の活動の中から、

4月。春探しをかねて何度か散歩に出掛けました。散歩から戻った子どもたちはいつも「おなかがすいた」「おやつを食べたい」と言っていました。

探る：



散歩から早めに戻ったある日、イシカワ先生は、畑のニラで「ニラせんべい」を作って出しました。子どもたちは大喜び。口々に「また、食べたい」と言います。「じゃあ、作ってみる？」というイシカワ先生の問いに、子どもたちは「うん、作る」「作る」と声を上げました。

試す：

早速子どもたちと作りました。役割分担するか、それとも一人一人が作るのがよいか。それぞれにどんな支援が必要か。どんなねらい設定ができそうかななどを試します。

支援を工夫しながら自分の物を自分で作る方法がよさそうでした。

いい匂いに誘われて立ち寄った友だちが「おいしいね」「またちょうだい」と言って部屋から出ていく様子を、子どもたちがうれしそうに見送ります。そして「もっといっぱい、お友だちにあげたい」と口にするようになりました。

単元の成立：

参観に来た保護者から「お店やさんができれば楽しそうね」と聞いた子どもたちは、「ニラせんべい屋さんやろう」「看板も作ろう」「お客さんがいっぱい来るといいなあ」と、期待をふくらませていきました。子どもたちなりに活動を発展させていくこともできそうです。

「ニラせんべいを作って、お友だちに喜んでもらいたい」という願いのもとで、単元『ニラせんべいやさん』を開始しました。子どもたちは張り切って、お店の準備やニラせんべい作りに取り掛かりました。

## ●単元展開の概要

- 店の飾り付けやポスターなどの準備
- クラス毎2時間目休みに特別支援学級に来て食べてもらう
  - ・友だち全員に引換券を渡す
  - ・一日1クラス（全クラス対象）
  - ・材料代として学級費より300円をいただく。

- 希望する方を対象に1枚10円で販売
  - ・学校長の許可を得る
  - ・家庭にお便りを配付（販売の周知と協力を依頼）
- 特別支援学級へのメッセージカードを記入してもらう

●子どもたちの教育課題と単元のねらい

	教育課題（抜粋）	単元のねらい	主な支援
トモキ	二語文程度のやりとりを増やしながら、人と一緒に活動したり、コミュニケーションをとったりすることができる。	二語文程度のやりとりをしながら、ニラせんべいをお客さんに出したり、お店の準備をしたりすることができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お店の準備中に、ニラせんべいにかかわる質問をする</li> <li>・「せんべい、どうぞ」とお客さんに声を掛けるよう促す。</li> </ul>
ナオキ	安定した気持ちで、人とかがわったり、活動に取り組んだりすることができる。	友だちと協力してお店の準備や、メッセージカードの飾り付けに取り組むことができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作業分担を明確にする。</li> <li>・出来映えにかかわり、よいところを具体的に称賛する。</li> </ul>
マサオ	体や心の調子を整えながら、出来るだけ休まずに登校し、元気に活動することができる。	ニラを切る、小麦粉と混ぜる、焼くなどの一連の活動に主体的に取り組むことができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・演示しながら説明する。</li> <li>・様子を見守り、自信を持ってできるようになったところから支援を少しずつ減らす。</li> </ul>

【メッセージカードより】

外はパリパリ、中はモチモチですごくおいしかったです。また、食べに来ます。

ところをこめてつくってくれてうれしかったよ。また、くるから、あそぼうね。



●生活単元学習を実施してよかったこと  
子どもたちが生き生きと生活できます

- 「ニラせんべい、いっぱい作るよ」「きょうも、がんばろうね」などと、子どもたちははめあてをもって登校してくるようになりました。ニラせんべいやさんを中核とした生活に張り切って取り組むことができました。
- 特別支援学級の子どもに声を掛けたり遊びに来たりする子どもが増えました。また、お便りや掲示物を通して特別支援学級の様子が保護者に伝わり、その理解にもつながっています。

特別支援教育についての理解が広がります

- 実際の学習を数回に渡り参観していただきながら、個別の指導計画と関連づけてこの学習でのねらいを保護者に説明しました。その中で、支援方法や育ちを共通理解することができました。  
また、「ニラせんべいやさん」で得た収入の計算や、お店準備で文字を書いたり作文を書いたりするなど、教科の学習と関連させながら、学習を深めることができました。



共に歩む

子どもたちの生き生きとした毎日を実現していくために生活単元学習は有効です。子どもたちの興味関心を出発点とし、子どもの思いに沿って活動を構成しながら、一人一人について個別の指導計画に照らし合わせて学習のねらいを定め、学習を進めていきます。その中では、周囲の理解や協力も得られ、より楽しい学校生活が実現されていきます。

事例  
4

# 見通しをもって活動に取り組む生活単元学習の工夫

～生徒たちがめあて意識をもち、まとまりのある生活になることを願って～

テープ方式の中学校の時間割。曜日ごとに固定された週時間割ではありません。特別支援学級の生徒たちは原学級の時間割によってまちまちに出入りをしています。そんな状況であっても、生徒たちが学校生活を楽しみにでき、生きる力を育める生活単元学習を行いたいと願っています。そのために、どんな工夫ができるのでしょうか。

## ●生徒が見通しを持って活動に取り組めるようにしたいけれど…

学級全員が集まれるのは週2時間程度。見通しをもった生活単元学習の活動が難しくなります。どんな工夫ができそうかを考えながら学習を進めていきました。

## ○週学習計画ではどんな工夫ができるかな

(単元「おいしいクッキーをたくさん作って大勢の先生に食べてもらおう」4・5月の例)

まず、単元にかかわる活動を洗い出し、生徒と相談しながら活動の割り振りをしました。

中心的な活動となるクッキー作りは全員が集まる時間に行うこととし、2人の時間の活動(クッキー販売や片付け、先生の写真への説明書きなど)、1人の時間の活動(片付けや会計、チラシ作りなど)と、割り振り、個に応じてクッキー作りに関係した活動をまとめて単元化しました。

			生活単元学習			特別支援学級での教科学習		原学級の学習	
月	日	曜	1校時	2校時	3校時	4校時	5校時	6校時	
5	22	月	テープ番号	19	3人の時はみんなでクッキー作りをしたり販売をしたりしよう。	22	学		
			1年 マコト君	美術		社会	学級活動		
			2年 サトシ君	教科学習		クッキー会計	学級活動		
			2年 オサム君	技・家		美術	学級活動		
5	23	火	テープ番号	23	24	25	26	27	
			1年 マコト君	教科学習	クッキー作り	保健体育	音楽	校内の先生に	
			2年 サトシ君	保健体育		技術家庭	クッキー販売		
			2年 オサム君	保健体育	片付け	教科学習	理科		
5	24	水	テープ番号	28	29	行	行事	3	
			1年 マコト君	AETの先生に	社会	1人の時はクッキー作りに関係した活動ができるね。	室	2人の時はクッキー作りの片付けをしたり、販売をしたりしよう。	
			2年 サトシ君	クッキー販売	理科				
			2年 オサム君	音楽	道徳				

## ○単元にかかわる活動と展開の概要

期間	クッキー作り (23時間)	その他の活動 (10～12時間)
醸成期間	①クルミクッキーの試し作り (3時間) ・クルミ割りをしよう ・クルミクッキー作り ・試食会(事務室や交流学級の先生と)	①特別支援学級3人で楽しく頑張ろう (2時間) ・自己紹介文の作成、自己紹介 ・昨年度の活動の振り返りと今年度活動計画
クッキー作り・販売	②単元開始 ○第一部 クルミクッキー作り (8時間) ・クルミ割り、クルミクッキー作り(全過程を一人で) ・袋作り、販売練習、販売、先生の写真撮影 ・製作活動の反省・会計 ○第二部 クルミクッキーとチョコレートクッキー作り (12時間) ・二種類から選んで作る(ペアを作って) ・袋作り、販売練習、販売、会計	②先生方へ販売のためのチラシをつくる (1時間) ・パソコンによるチラシづくり ③先生の写真一覧を作ろう (4時間) ・写真の準備 ・名前、教科などの説明書き、貼り付け ④AETの先生にクッキーを販売しよう (2時間) ・AETの先生に販売
まとめ		⑤校外学習でまとめをしよう (2時間+1日) ・計画、買い出し、当日の活動、まとめ ⑥出納簿を付けよう (1時間)



○教室環境ではどんな工夫ができるかな

生活単元学習の授業がない日にも、単元を意識できるように、教室壁面への掲示を中心に、写真のような工夫しました。



頑張ってクッキー作りや販売している姿を写真に撮り、おたよりに載せたり、大きくプリントしてはったりしました。

学校全員の先生の写真と紹介の文を貼りました。

黒板には週学習計画やクッキー作りの目標を掲げました。

○意欲が持続する単元展開の工夫・主体的な活動になるための支援方法の工夫

- ・ 一人一人が自分の力でたくさんできるよう、レシピや道具など支援方法を考えよう。
- ・ 先生も一員、一緒にクッキーを作ろう。共に活動しながらさりげない支援を心がけよう。
- ・ 違う種類のクッキーも取り入れて、選択したり活動の幅を広げたりできるようにしよう。
- ・ 友だちとかかわりが広がるよう、グルーピングを工夫しよう。
- ・ 楽しい校外学習をみんなで計画しよう。

●見通しをもった年間計画を作成しよう

季節の生活や学校祭、参観日などの学校行事と関連付けるなど、生徒たちの生活から生まれる願いをくみ取り、実現できるように、生活単元学習の計画を生徒と共に作っていきます。独自の行事（目標）を持つことで、更に見通しをもった活動になると思います。

4月	おいしいクッキーをたくさん作って大勢の先生に食べてもらおう	10月	パンジーの花を育てよう
5月	畑でサツマイモやカボチャを育てよう	11月	畑でとれたもので、お菓子を作って先生やお母さん方に食べてもらおう
6月	学校祭で縁台とクッキーを販売しよう	12月	パンジーとプランターカバーの販売会を開こう
7月		1月	
8月		2月	
9月	★学校祭（9月22～23日）	3月	★特別支援学級販売会（3月中旬）



共に歩む

この実践を通して、「人数的・時間的な制約があっても、活動や教室環境を工夫することで生活単元学習が成立し、意欲的な生活を送ることができる」ということを実感しました。この期間、生徒たちはクッキー作りや販売を楽しみに意欲的な生活を送り、その中で一人でもできることが広がり、新入生の友だちも自然な形で学級に位置付けていきました。

本年度は3人の生徒であり、時間の調整をあまりせずに生活単元学習の活動を進めることができました。来年は2人増えて5人になります。学校の先生方の理解を得ながら、次年度のテーマ（時間割）作成には特別支援学級担任も参加し、学級全員がそろそろ時間を確保できるようにしていきたいと思っています。

事例  
5

# 一人一人が育つ生活単元学習

～明確なねらいのもとに子どもの姿を記録して～

多様な子どもたちが在籍している特別支援学級。それぞれの個性を大事にしながら、集団として生活単元学習を進めたいと思いますが、ねらいが一部の児童に偏ったりみんなで楽しむことが難しかったりすることがあります。また、活動を通して子どもたちがそれぞれどのように育ったのかという疑問も残りがちです。

## ●どの子ども楽しめる活動を

さわやかな気候になり、屋外での活動をメインにしたいと考えていたところでした。休み時間に教室のハンドローラーで遊び始めた5人の子どもたち。思うままに一人で動くことを楽しんでいる子、友だちと二人で追いかけて遊びをしている子。しばらくして、引き出したビニールテープに沿って走り、電車に見立てた遊びを始める子もいました。社会見学で電車に乗ったことを思い出したのでしょうか。畑作業ではどの子も一輪車の扱いに慣れてきていたもので、一輪車を電車に見立てて電車ごっこを楽しもうと考えました。

## ●単元のねらいと個々の子どものねらい（一部抜粋）

単元名 「電車ごっこしよう」

単元のねらい: 電車ですでにかけた経験を生かし、一輪車を電車に見立て、お客さんになって一輪車に乗せてもらって楽しむ・運転手さんになって好きなコースを通る・駅員さんや駅弁屋さんとのやりとりを楽しむことができる。

1時間の流れ: コース作り(ライン引きでコースをかく) → 一輪車を電車に見立てた電車ごっこ → 駅弁屋さん

	アキさん(2年)	キヨシさん(4年)
単元のねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 友だちの一輪車に乗せてもらったり、自分で一輪車を自由に押し回して楽しむことができる。</li> <li>② 友だちを真似ながら「ください」「どうぞ」等のやりとりを楽しむことができる。</li> <li>③ 求められた枚数(3枚以下)の模擬紙幣を数えて出すことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 電車のコース作りや切符の販売機作りなどで、自分なりの工夫を楽しむことができる。</li> <li>② 乗せることができる友だちを一輪車に乗せたり自ら友だちに乗せてもらったりして楽しむ。</li> <li>③ 切符にある行き先を読み上げて、間違えずに目的地に行くことができる。</li> <li>④ 友だちとのやりとりで、「おいくらですか」「〇円になります」等ははっきり言うことができる。</li> </ul>
手だて	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 楽しさが感じられるように、教師が一輪車に乗せてコースを回る。</li> <li>● やりとりの場面では、初めは教師と一緒に「ください」等の言葉を言う。</li> <li>● アキさんに要求する模擬紙幣枚数は3枚以下にするよう、友だちに依頼しておく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 自分から工夫することを見守る。販売機などの製作用に、箱等の材料を用意する。</li> <li>● 乗ることの楽しさが体感できるように、教師が一輪車に乗せてコースを回る。</li> <li>● 切符の行き先等には読みがなをふり、事前に、読みの練習する。</li> </ul>

↑ 個別の指導計画(抜粋)から

実態	模倣はよくできる。簡単な二語文で気持ちを伝えることができる。動きはゆっくりだが、遊具等で遊ぶことは好きである。	とてもおだやかで、みんなに好かれている。教師には、やりたいことや嫌な気持ちを言うことができる。簡単な加減・乗法の計算ができる。
教育課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 身の回りで必要な言葉を覚え、自分の言いたいことが伝えられる。</li> <li>● いろいろな遊具で遊んだり、山の中の探検を楽しんだりして、身体を充分動かす。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 一人で買い物やバスの利用(乗り換えなし)ができる。</li> <li>● やりたいとき、困ったときなど自分の気持ちを友だちにも言える。</li> </ul>

●活動の実際と評価

	活動内容	アキさんの活動の姿	キヨシさんの活動の姿
第1時	電車ごっこだよ コース作り  一輪車で電車ごっこ	友だちの様子を見て、校庭に出る。友だちが一輪車で遊びを始めても、ライン引きを楽しんでいる。教師の誘いで一輪車に乗る。笑顔を見せたり喜びの声をあげたりする。  経験すると、新しい活動にも入れそうだ	空き箱で自動販売機を作り始める。自由に2本のラインを引く。(タクヤさんが横のラインを入れ、線路らしくする。タクヤさんと交代で、一輪車に乗ったり(お客)乗せたり(運転手)して楽しむ。財布がなくて、不便なことに気付く。 →あした作ろう 昨年度の活動を思い出したようだ
第2時	財布を作ろう 電車ごっこ	作り方をエミさんに教えてもらいながら自分で作る。「切符を買うんだよ」とユウタさんに言われ、友だちに教えてもらいながら買う。  友だちとのかわりが多く見られた  レストラン、買い物学習の積み重ねが生きた	授業時間になると、すぐにタクヤさんと財布作りを始め、できあがるとすぐに校庭に飛び出す。乗り換えのために一輪車を1台用意していた。社会見学で乗り換えたことを思い出したようだ。 駅の看板等があれば、更に楽しめたらどう
第3時	駅弁(先に作っておいたたこやき)を買おう	電車ごっこを楽しみ終わった頃、教師の「えきべーん」の声。「お金、2つください」と言われ10円を2枚支払う。	「250円です」と言われ、「250円ないなあ。…そうさ、500円でおつりをもらおう」と言って500円を出し、おつりをもらう。
第4時	遊具は、遊園地	駅員のお友だちに、「タイヤとびだよ」等と言われ、友だちの真似をして遊びながら電車ごっこを楽しむ。	切符に書かれた用事(登り棒をのぼってこよう等)を見て、楽しみを増やすことができた。
第5時	お客さんはチャボ	休み時間に遊んでいたチャボを、そのまま連れてくる。チャボをお客さんにして楽しむ。	アキさんがチャボをお客さんになっているのを見て、チャボをお客さんにする。
第6 7 8時	お客さんはおかあさん 1年生2年生	時間になると、すぐにチャボを抱いてくる。おかあさんや1・2年生にやり方を教えてあげようとしていた。  同じ活動の繰り返しにより、自分から活動する姿が増えている	チャボとおかあさんを一緒に一輪車に乗せてあげたり、乗せてもらい、蛇行運転をしてもらって、楽しんだりした。1・2年生には、行きたい駅を聞きながら、一輪車に乗せてあげていた。

●どんな力がついたのであろう(単元のねらいを踏まえた評価)

	アキさん	キヨシさん
育ちの姿	①友だちを見て、一輪車を押すことやライン引きで線路をかくことがわかり、自分の思いを友だちや教師に伝えて楽しむことができた。 ②友だちに教えてもらいながら、教師と一緒に「ください」「はいよ」等と繰り返す中で、場面に合う簡単なやりとりができるようになった。 ③1対1対応しながら、2枚まで模擬紙幣を数えて渡すことができた。	①生活経験を生かし、乗り換え駅の設置や自動販売機作りなど、活動を楽しんでいく工夫ができた。 ③読みがなを頼りに切符の駅名や用事等をゆっくり読んだ。 ④小さめの声だったが切符の売買や駅員さんとお客さんとのやりとりを楽しむことができた。 ◎何百何十円は正確に出せた。自分でおつりを計算したり、難しいものは友だちに教えてもらって渡したりすることができた。 →今後の学習に電卓の活用を取り入れていきたい。



共に歩む

子どもたちの遊びや生活の中に生活単元学習のヒントがあります。一人一人の興味関心をつなげ、みんなで楽しめる単元設定ができると、子どもたちの満足度もアップします。

単元のねらいは、教育課題や単元のテーマを踏まえながら設定しましょう。その際、教科の力も考慮します。個に応じて教科学習との関連を図りながら、生活の中で生かされることのがぞまれます。

単元が終了したときに、「また、やりたいね」と子どもが満足できる活動になったか、また個々のねらいが達成できたか、子どもの姿の記録をもとに評価しましょう。

事例  
6

# 保護者と共に作成する個別の指導計画

～その子らしさ・よさを保護者と共有して～

個別の指導計画を作成するのですが、教師から家庭への一方的な提案になってしまっているのでは？と不安になります。「これでいいです」と保護者から返事もらっているのですが、遠慮しているように感じます。

保護者、原学級担任、特別支援学級担任の三者で互いに本音でその子らしさや課題を語り合いながら、個別の指導計画の作成を進めるにはどうしたらよいのでしょうか。

I

特別支援学級はじめの1歩

## ●気楽な気持ちで学校に来てもらうために… 《保護者の気持ちに寄り添って》



学校は何となく敷居が高いなあ…。

いつも迷惑をかけていて  
申し訳ないなあ…。

何を話したらいいのかなあ…。

こんなことに心がけよう

- 職員全員が自分から明るくあいさつを!
- 連絡ノートや電話などで毎日の様子(よさ、新たな発見、驚き等)などこまめに連絡を!
- 参観日には、見所を事前に知らせて!  
(見所には、伸びてきているところや課題としているところを盛り込んで)

## ●話し合いをスムーズに進めるために… 《事前打ち合わせをしておこう》

話し合いの内容は?

どんな順に話を進めようかな?

- ①最近のモトキさんの様子
- ②モトキさんらしさって?
- ③伸びてきていると感じていること
- ④学習に対する保護者の期待
- ⑤これからの課題、願い
- ⑥今後の具体的な支援の方向

話し合いの役割分担は?

進行:特別支援学級担任  
記録:原学級担任

話し合いで留意することは?

どの内容もできるだけ学校側から話題提供しましょう。  
子どものよいところを取り上げると、保護者も話しやすくなってきます。

## ●保護者・原学級担任・特別支援学級担任による話し合いの例

〈こんなやりとりをしました〉

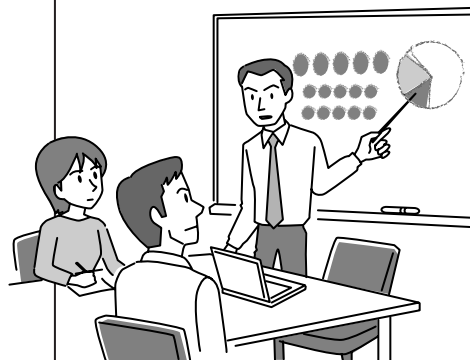
T1「モトキさんは友だちに対してやさしいですね。」

T2「3組(原学級)ではこんなことがあったんです。ナオさんがばけつの水捨てに行くとき、ばけつを一緒に持ってあげてたんです。」

母親「モトキは、三人兄弟の中で一番気がつくし、一番手伝いをしてくれるんです。本当にやさしい子だと私も思っています。」

T1「モトキさんの思いやりの気持ち、やさしさは宝ですね。」

母親「そう言っていたら、何かとてもうれしいです。」



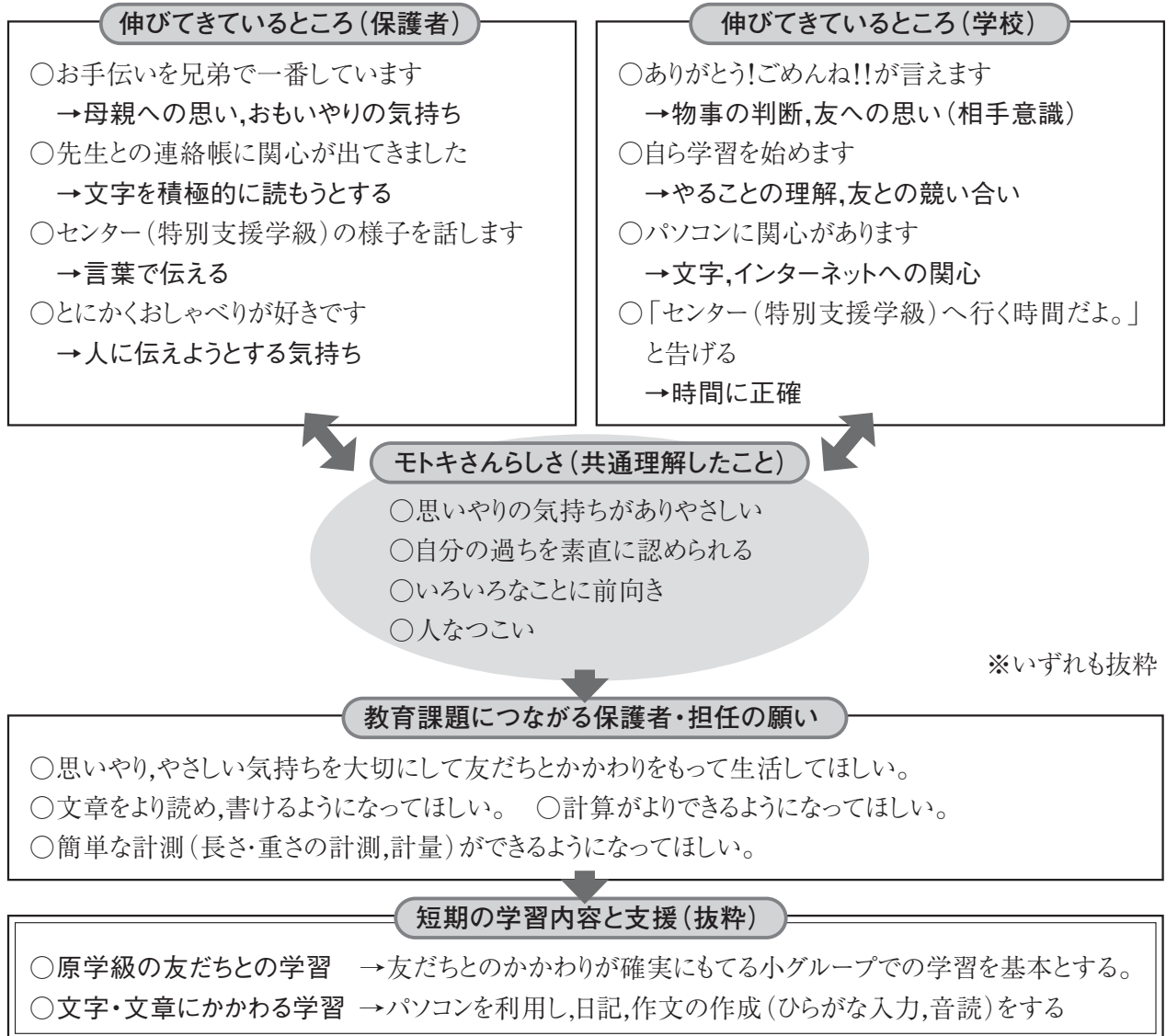


話し合いを進めながら、原学級担任が、大きめの画用紙に話題になった要点をまとめていきました。保護者には、要旨をまとめていくことについてあらかじめ許可をもらい、書く内容を確認しながら書き込みました。話し合われていたことが、そのまま書き込まれていくので、保護者はモトキさんの伸びてきているところ・課題・今後の学習などについて一つ一つ確認していくことができました。



「原学級担任が要点をまとめて」

●話し合いの内容を共有するために… 《結果をまとめて知らせよう》



共に歩む

保護者が子どものことを語る時に、少しでも不安よりも期待や喜びが大きくなって欲しいと私たちは願っています。そこで、教師が作成した個別の指導計画を保護者に提示するスタイルから、保護者と原学級担任、特別支援学級担任が共に語り合い、共に作成していく個別の指導計画にするために日ごろから気軽に学校に来てもらえるような環境づくりを心がけました。また、そのらしさや伸びてきているところを支援に生かしていくことが必要です。

事例  
7

# 将来への願いの実現に向け、今を考えよう

## ～個別の指導計画の活用と将来を意識した生活づくり～

個別の指導計画を作り、それに基づいて指導を進めているタカハシ先生ですが、今の生活づくりが、中学進学を控えたトモオさんの将来にどう結びついていくのか不安に感じています。将来の可能性を少しでも広げていくために、今の生活づくりを充実させ、見通しをもちたいと願っています。

### ●トモオさんの成長の足跡をたどろう

○就学前の様子を知る

就  
学  
前

- 友だちと遊ぶより一人遊びの方が好きだった。文字や数に興味はなかった。
- 家の人に言わずに一人で外に行ってしまうこともあった。
- 素直で、友だちや保育士さんを困らせる事はほとんどなかった。

○個別の指導計画から、成長の様子を見返す（一部抜粋）

#### 日常生活の姿

- 一年生
- 10までの数唱ができる。
  - 文字に興味はもっている。
  - 先生や友だちの名前を覚えにくい。
  - カズオさんと仲がよい。
  - 音楽を聴くことや歌うことが好き。
  - 話を素直に聞き、誘った活動に取り組むことができる。

#### 指導内容

- 数字の歌のパネルシアターを作って楽しみながら、10までの数字を覚える。
- 学級の友だちや担任の名前を覚え、書き方(ひらがな)も覚える。
- カズオさんと一緒に活動し、あそび・買い物・調理活動・野菜作りなど経験の幅を広げる。

- 三年生
- 1けたの加減計算はできる。
  - ひらがなの読み書きはできる。
  - 調理の材料の中から買いたい物を1つ決めて、一人で買い物ができる。
  - 毎日、チャボの世話ができる。
  - 同学年のシズオさんとのかかわりも多くなってきた。
  - 草取りなど作業に根気よく取り組む。

- 1年生の漢字学習をする。
- 読み聞かせをしたり、簡単な絵本を読んだりして、お話を楽しむ。
- 調理活動、先生対象のレストラン等の活動を通して、必要なものを買ったり、正確にお金を受け取ったりする。
- 箱や板を使って、好きな車を根気よく作る。

- 五年生
- 簡単な四則計算ができる。
  - 2年生程度の漢字の読み書きができ興味をもって簡単な読み物が読める。
  - 一人で買い物に行ける。
  - 仲のよい友だちと一緒に、ルールのある遊びが楽しめる。
  - 嫌なことは「いや」と言える。

- おつりの計算や量や長さの測定等、生活の中で必要な学習について、算数や生活単元学習の中で学習する。
- 単元により原学級の体育の学習に参加し、ゲーム性のある競技を友だちと一緒に楽しむ。

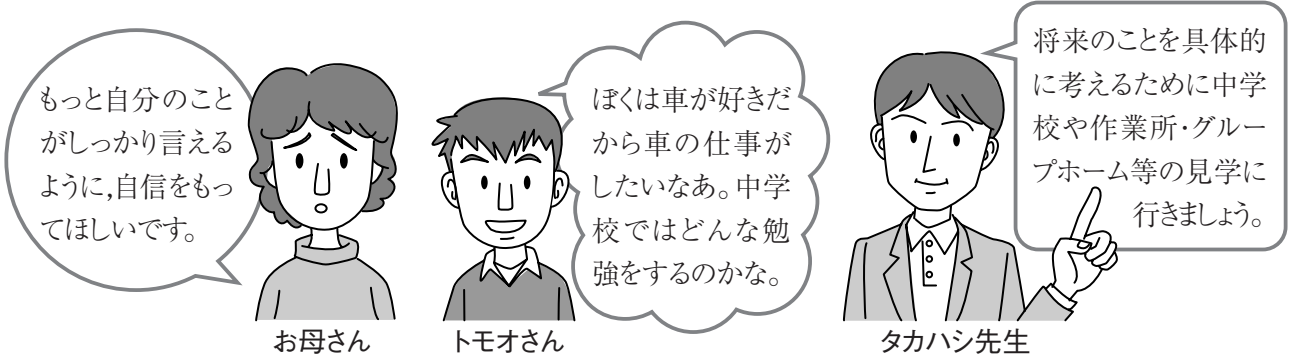
学習の積み重ねの中で、友だちとのかかわりが広がり、着実に成長

I

特別支援学級はじめる1歩

※教育相談の結果などの資料も検討し、まとめておきましょう。

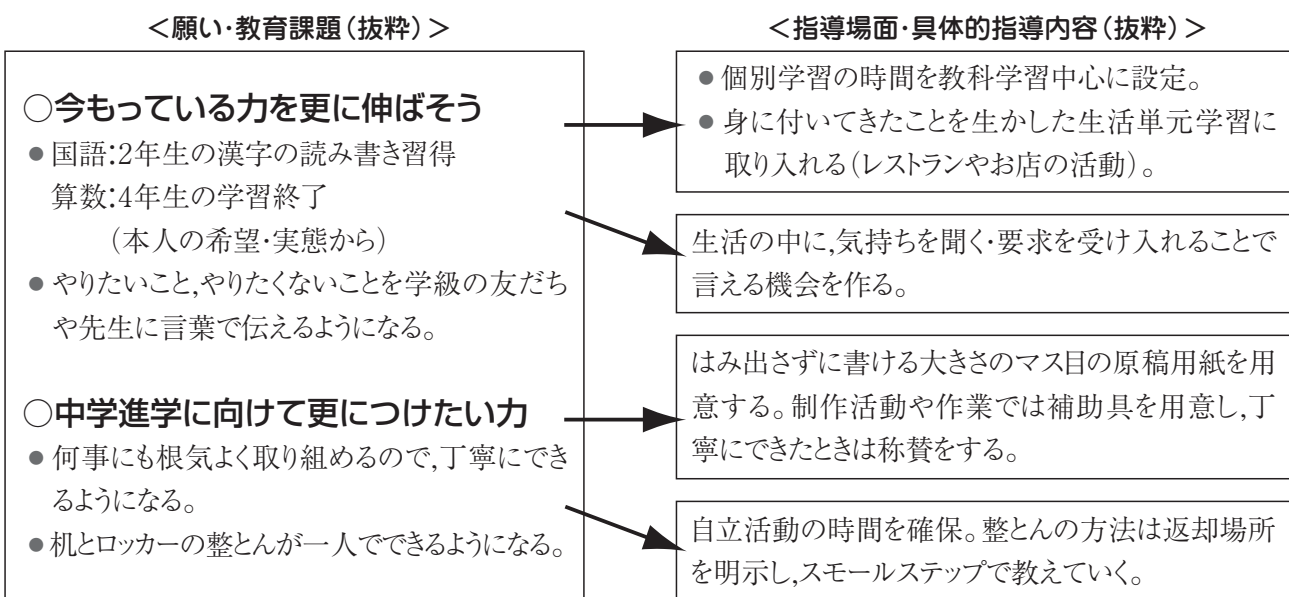
●将来に向けた願いを語り合おう



●情報を収集しよう

学校参観	施設等参観	制度等を知る
<ul style="list-style-type: none"> <li>○中学校参観                             <ul style="list-style-type: none"> <li>●特別支援学級</li> <li>●通常の学級</li> </ul> </li> <li>○特別支援学校                             <ul style="list-style-type: none"> <li>●中学部を中心に</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○障害者の方々が働く施設や作業所,事業所(企業)等                             <ul style="list-style-type: none"> <li>●見学し,施設長さんや社長さんのお話等を聞く</li> </ul> </li> </ul> <p>※特別支援学級担任者会等での見学の機会が活用できます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○利用できる福祉サービス                             <ul style="list-style-type: none"> <li>●「障害者自律支援のしおり」県発行</li> <li>●県社会部障害福祉課ホームページ等を参照</li> </ul> </li> </ul> <p>※保護者がよく知っていることもあります。</p>

●中学進学に向けて,今の生活づくりを大切にしましょう (個別の指導計画の見直し)



共に歩む

個別の指導計画を見直し,子どもの成長を振り返る機会を設ける中で,できるようになったことや頑張れるようになったことが確認できるようになると,将来に対する大きな励みになります。

将来に向けての願いを踏まえ,個別の指導計画に基づいて,ねらいや支援を明確にした生活づくりを積み重ねていくことにより今の生活が充実していきます。そして,将来についても,子どもの育ちを実感しながら,見通しをもって話し合うことができるようになるでしょう。

事例  
8

# 「個別の指導計画」を生かした中学校での生活づくり

～保護者と共に計画,評価を重ねながら～

4月に特別支援学級1年生として入級してきたサトシさん。これからの中学校生活に,本人も保護者の方も不安な様子でした。

担任のタケイ先生は,サトシさんのためにどのような学校生活をつくっていったらよいか考えました。サトシさんは調理活動が好きで,友だちと一緒に楽しく活動したいと願っていました。

## ●個別の指導計画の作成を通して,保護者と共に中学校生活を考えます

個別の指導計画は,サトシさんの学校生活づくりを進めるための重要なツールです。家庭訪問や参観日の機会等も利用し,保護者とサトシさんの状況を相談して,計画を修正しながら取り組みます。

## ●個別の指導計画をもとに,サトシさんの生活づくりを行いました

タケイ先生



まずサトシさんが見通しをもって生き生きと学校生活を送ることができるように生活単元学習を大切に考えました。時間数を確保し,好きな活動をもとにいろいろな活動を経験できるように配慮しました。また本人や保護者の希望で,できるだけ原学級の友だちと一緒に活動できるようにしました。

### 中学1年次の個別の指導計画より

#### 可能性の芽

【人とのかかわり】大勢の友だちと一緒に活動し励まされると,本人なりに努力する姿がみられるだろう。

【作業的な活動】大好きな食べ物作りでは,見通しをもって繰り返し行ったり,スモールステップに配慮して行ったりすることで,自分で出来ることが広がっていくだろう。

【知識理解】人と話すことが好きである。数学(算数)では式の意味の理解は難しいが,整数の筆算は得意である。

#### 教育課題

1. 自ら日課を確認し,一日の学習に見通しをもって取り組むことができる。
2. できそうなことに自ら挑戦し,「できた」という成就感を持ち,新たなことにも興味関心を広げる。
3. 学級や同学年の友だちと活動する中で,会話を楽しむことができる。

合わせた指導及び教科領域別指導等

#### 1学期 担任の願いと支援の方向 (番号は教育課題に対応。)

	願 い	支 援 の 方 向
生活単元学習・生活	1. 生活単元学習の活動を張り合いに見通しをもって生活を送ってほしい。 2. 調理活動や作業的な活動を意欲的に行う中で,自分でできることを広げてほしい。	1. 生活単元学習の時間を,まとまりをもって確保したり,週日課を黒板に書いて分かりやすくしたりして,見通しをもって取り組めるようにする。 2. 調理活動を中心にお金の計算や手紙を書く活動など,関連した様々な活動も位置づけて単元化するとともに,できることに配慮した工夫をして,もっとやってみようとする意欲を培う。
教科学習	2. 生活に根ざした学習や小学校の復習で,基礎的な力をつけてほしい。	2. 先生の名前や教科名を漢字で書くなど,生活に必要な学習を進める。 2. 得意な会話や具体的な活動を手がかりに,基礎的な理解力がつくようにする。
原学級での学習	2. 自分のできそうなことに前向きに取り組んでほしい。 3. 友だちと協力しながら,活動を楽しんでほしい。	2. 授業の中で活躍できるように操作的な学習をとり入れるなど,原学級や教科担任と連絡を取り合っ,適切な支援ができるようにする。 3. 教科学習でも,グループ活動でかかわって学習する場面を設定してもらう。

特別支援学級での学習内容		原学級での学習内容
生活単元学習	● 時期や生徒の希望でテーマを決め,1~2ヶ月間活動する。中心となる活動は主体的な活動になるよう支援し,教科的な活動など多様な活動も関連させて単元化する。	教科・領域等 ● 社会,理科,音楽,美術,技家,保体,行事など ● 一緒に活動できることを主な目的とし,できる範囲で教科のねらいに応じて学習する。
教科学習	● 漢字プリント,算数ワーク(「もうちょっと頑張ると100点とれそうだ」と意欲がもてる内容,宿題でも毎日やる。) ● 原学級での学習から(理科,社会の予習や復習を行う)	



●計画(Plan)→活動(Do)→評価(See)を繰り返し行って、より適切に生活を整えていきます

- 学期ごとの願いにもとづいて単元の願いや学習内容を設定し、支援方法を工夫しました。
- 生徒のよいところや支援の内容が書いてある個別の指導計画の“日常生活の姿”や“可能性の芽”には、学習や活動に意欲的に取り組むための支援のヒントがあるので参考にしました。

●学期末に、学習の様子から評価を行い、個別の指導計画を見返して通知票に掲載しました

- 通知票に個別の指導計画(各学期)を添付し、懇談会で保護者に見ていただき、その学期の生徒の様子について話をしました。また次の学期や次年度の願いや支援の方向と一緒に考えました。
- 原学級で学習している教科などは、教科担任にできたこと、頑張ったことをコメントしてもらって通知票に載せました。

保護者と話し合っって個別の指導計画を作るので、通知票に掲載することは大切なことです。その際、保護者の気持ちに寄り添い、内容や表記の仕方に注意する必要があります。

サトシさんの 1学期 個別の指導計画の評価(通知票)より

1学期の様子・今後の方向(番号は教育課題に対応)

特別支援学級での学習	<p>生活単元学習生活</p> <p>1.自分から週日課や明日の予定を確認しながら調理活動などを楽しみに生活をすることができました。部活や原学級での学習に自分から向かうようになってきました。中学校生活に馴染んできたようですね。</p> <p>2.調理活動は全過程を一人でおこなうようになりました。クッキー作り(30個)やクレープ作り(12個)では、秤を使ったりクレープを薄く焼いたりと一人ですることが増えました。電卓を使って会計も行いましたが、注意深く正確に入力できました。更にいろいろな活動に意欲的に挑戦していくことを期待しています。</p>
原学級の学習	<p>2.学習プリントでは、“80点程度とれる内容”を意欲をもってできました。数量的なとらえは難しいので、お金などを使って具体的に学習してきました。「“合わせて”と言う時には足すんだよ。」など言葉で覚えるようにすると混乱せずに学習できるようになってきました。計算ドリルなどは意欲的にできました。</p> <p>3.行事の遠足やキャンプなどクラスの一員として係活動をしたり楽しんだりできました。大縄跳びは友だちの励ましで跳べるようになりました。人間関係は、学習やその他の活動を通して、小学校時代の仲間から広がり始めています。</p>

中学の国語や数学の勉強がないので心配です。



サトシさんのお母さん



タケイ先生

サトシさんは、生活単元学習の中で実際の場面を通して、国語や数学的な学習をすることで、生活に生きて働く力になっています。2学期は、特別支援学級の中でも教科の時間を充実させて行こうと思っています。



共に歩む

多様なニーズをもつ特別支援学級の子どもの生活を充実するために、「個別の指導計画」を作成し、「生活づくり」を行うことが大切です。サトシさんは、そのような生活づくりを行う中で、意欲的に生活しながらできることを広げ、苦手な学習もチャレンジすることができるようになりました。個別の指導計画を生かすためには、保護者との連携がポイントになってきます。日々の連絡の取り合いも大切ですが、個別の指導計画を「通知票」に位置づけ、家庭訪問、懇談会、連絡帳などで話し合いを重ねながら、願いや支援の内容を共通理解していくようにしましょう。

事例  
9

# 子どもの願いや課題に合わせた教材の工夫

～音楽での学習を通して～

じっとしていることが苦手で、自分の思いを言葉で伝えようとするのが少ないマサオさんに対して、ハラ先生は効果的な学習が仕組めず悩んでいます。子どもたちの願いや課題に合った学習をしたいと考えていますが、具体的にどんな学習を考えていったらよいのでしょうか。

## ●マサオさんの実態と教育課題

### マサオさんの実態

じっとしていることが苦手で、授業中もすぐに席を立ち、独り言を言いながら教室の中をぐるぐる回っていることが多いマサオさん。担任のハラ先生に、好きなキャラクターの名前を言って話しかけてくれることはあっても、自分の気持ちを伝える言葉を、なかなか話してくれません。



マサオさん

### 教育課題(抜粋)

- 集中して取り組める活動や時間を増やす。
- 自分の気持ちを身振りや言葉で相手に伝えるようになる。

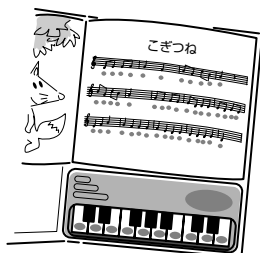
活動に夢中になれる状態にならないと、不安になりやすいのかな。マサオさんが、夢中になれる活動はないだろうか。

自分の気持ちを伝えたいくなるような、切実感もてる活動が必要なんだろうなあ。



ハラ先生

## ●どんな学習内容だったら、マサオさんが集中して取り組むことができるんだろう。



マサオさんにはお気に入りの絵本がありました。それは、絵本についている鍵盤にドは赤、レは青...というように、色別のシールがはられていて、楽譜の方も鍵盤と対応して、ドは赤、レは青と、色で区別して表されているものです。休み時間には、棚からこの絵本を取り出してきて一人で弾いていることがよくありました。そんなマサオさんの姿を見て、ハラ先生は、ふと「マサオさんは、音楽が好きなんだよな。この絵本のように色や記号で区別したら、もっと他の曲や楽器でも楽しんで集中して取り組むことができるのではないだろうか。」と考えました。

### 音楽での学習で、マサオさんが集中できそうなことを考えてみよう。

音楽の先生にも相談にのってもらいながら、特別支援学級のみんなと一緒に楽しむことのできそうな合奏の仕方を考えてみました。

## ●和音を色別に表示して、合奏をしてみよう。

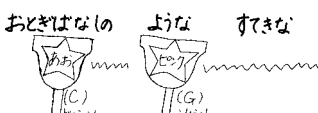
### 選曲について→アレンジでの工夫

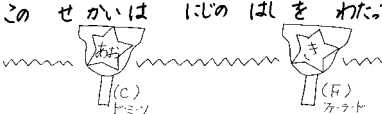
- テンポが速すぎず、和音があまり変わらない曲の方が、ハモった響きを感じることができ易いだろう。
- 和音の種類が多くなると難しくなるので、3種類だけの和音で合奏ができるように、音楽の先生に和音を付け替えてもらおう。

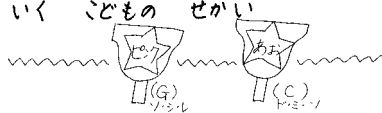
### 楽器選びについて→ハンドベルを使うことのよさ

- ハンドベルは、金属の部分にだけさわらないようにすれば、どのように持っても簡単に、美しい音を出すことができます。
- 音の出し始めがそろわなくても、和音の種類さえ間違わなければ、メロディーとは必ず合うので 容易に和音の響きを楽しむことができそうです。

こどものせかい (子供用楽譜)

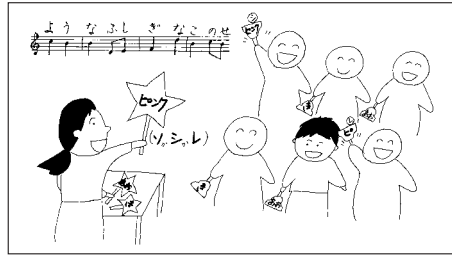
おどきはなの ような すてきな  


このせかいは にじのほをわたす  


いく こどもの せかい  


～メロディーは、音楽の先生に  
ピアノで弾いてもらいました～

おどきはなの  


ようなふしきなこのせ  


マサオさんは、間違えず  
にできてとてもうれしそう  
でした。それからハンド  
ベルを一本ずつ増やし、  
最終的には、三本のハン  
ドベルを曲の中で鳴らし  
分けることができるよう  
になりました。



マサオさん

じっとしていることが苦手なマサオさんでしたが、この曲のハンドベルの練習では、まるで別人のようでした。繰り返し練習する中で、その場を離れず、前に立って指し棒で音を示すハラ先生の方をじっと見つめる姿が見られました。そして、最後まで間違えずに3色のハンドベルを鳴らすことができた時、前で音を示していたハラ先生のところへ「ひゃく・てん」と言いながら、ハイタッチをしに来たのです。これは、マサオさんなりの喜びを表す言葉でした。

●どうしてマサオさんは、この活動で変わったのかな。

- 和音を色別にして、3本のうちのどのハンドベルを鳴らせばよいか分かりやすく示せたことがよかったのだろう。
- 間違えないでできるとメロディーとうまく合って、そのハモった響きがきつと心地よかったのだろう。
- 集中して取り組み、達成感もてたからうれしいという気持ちを伝えたくなったのだろう。

●自分の気持ちを伝えようとする姿が少しずつ増えていったマサオさん～絵日記、日常生活への広がり～

ハンドベルでの合奏で、思わず、「ひゃく・てん」と言いながらハラ先生のところへハイタッチをしに来たマサオさん。帰りの会の前に、先生と一緒に毎日書いている日記で、「うれしかった」という言葉をハラ先生がノートに書くと、～そうなんだよ～というように、うん、うんとうなずくのです。こんなやりとりを繰り返していた数ヶ月後のある日、学級でボウリングをしていて、マサオさんがストライクを出しました。思わず「うれ・し・い」と言いながら、ハラ先生のところへハイタッチをしに来たのです。達成感もてる活動を仕組んだことで、コミュニケーションの面でも成長を見ることができました。

12月27日(木) both 2 100てん


ベル やった  
(ベル) (やった)

きれい  
(きれい)

じょうずは できた  
(じょうずは) (できた)

100てん  
(100てん)

うれ(っ)た  
(うれしかった) ☺




共に歩む

子どもの願いや課題に合った学習内容を決め出すことは大変なことで、日々悩むことが多いものです。1つの題材を取り上げるたびに、子どもの姿を見つめ直し、子どもの願いや課題に合わせて試行錯誤し、教材を工夫することで、具体的な支援の方向が少しずつ見えてくることもあります。ここでは、音楽での学習からアプローチしたものを紹介しました。自分の目の前にいる子どもの実態、興味関心を洗い出し、その子にあった支援を積み重ねながら、「できた」→「気持ちよかった」→「うれしい」という達成感や成就感を、教師自身も子どもと共に感じながら授業づくりを進めていくことの大切さを感じました。

# その子に合った視覚的な支援のヒント

～子どもの意図をくみ取ることを大切にしながら～

言葉でのコミュニケーションが難しい子どもが、自分の気持ちを理解してもらえずにパニックに陥ったり、悲しい思いをしたりすることがあります。特別支援学級担任のユカ先生もテツヤさんのそんな姿を見て悩んでいました。

なんとか自分の意思を表現できるようにしてあげたいと考えていたユカ先生は、以前参加した研修会で「有効だ」と聞いた写真や絵カードを使って視覚的な支援を行ってみました。どのようなやり方がいいのか自信がもてなかったので、思い切って特別支援学級担任者会の先生方に相談してみました。

## I

## 特別支援学級はじめての1歩

## ●ユカ先生の悩み

テツヤさんは発語がほとんどなく、意味のある言葉のやりとりはできません。時々オウム返しはあるのだけれど…。

イライラやパニックの原因は私の支援の仕方がよくないからかな…。

子どもが視覚的に理解できるような手だてが有効だと聞いたので、日課や授業の内容を絵カードや写真で示すようにしたけれど…。でも、テツヤさんのためになっているのかどうかよく分かりません…。



ユカ先生



テツヤさん

## ●特別支援学級担任者会での相談

特別支援学級担任者会で、実際に絵カードや写真などを使った視覚的な支援によって効果をあげているアオヤマ先生に相談してみることになりました。

ユカ先生は、これまで実践したことを次のように整理しました。

- デジタルカメラで校内の写真を撮ったり、授業の内容を描いた絵カードを用意したりして、日課に合わせて黒板にはり、毎朝確認をする。
- 新しい学習内容の時は、手順や道具の使い方などを図と写真で順序立てて示すようにする。
- 動作や気持ちを表す絵カードを用意して、何かしたい時やこちらがしてほしい時は、その絵カードを指差して示すようにする。

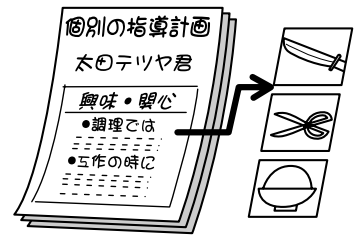
### ユカ先生

日課の確認には、それなりに役立っています。これまでは、毎日のパターンと違う活動が入ったことを言葉で伝えても、うまく理解できないようでしたが、絵カードで示すことで日課が変わったことが分かりやすくなったみたいです。でも、活動を促すときに絵カードを使いたいと思ってもうまくいきません。単に絵カードを示しただけでは指示が伝わらないようですし、活動を嫌がっているように感じる時に、彼の気持ちを示していると思われる絵カードを指さして気持ちを教えてほしいのですが、使ってくれません。



**アオヤマ先生** テツヤさんが好きなことって何かな?個別の指導計画を見直してみるといいよ。好きなこと,得意なことをまとめてあるはずだから,それを大切にしましょう。

テツヤさんの好きなことは,調理や工作です。そういった場面で絵カードや写真をコミュニケーションの手段として活用することが,テツヤさん自身が活用していくとするきっかけになるのではないかというアドバイスです。



例えば「○○を持ってきて」と指示を出す時に,言葉と一緒に絵カードを提示するというのは分かりやすい支援方法です。しかしそれが指示のためだけの手段になってしまっていることがあります。ともすると「○○しましょう」「○○してはいけません」という言葉のかわりにカードや写真を指差すだけの使い方になってしまいがちです。

**アオヤマ先生** 嫌な場面ばかりで,絵カードを使っていると,絵カード自体を嫌いになってしまうかもしれないね。買い物や調理など,テツヤさんが得意であったり好きであったりする場面でまず使うことが,テツヤさんが主体的に活用しようとするきっかけになると思うよ。

大切なのは「理解」や「表出」のために使うことです。テツヤさんが困っていることは,きっと自分が「好きなこと」「やりたいこと」がうまく通じないからではないでしょうか。そうであれば,視覚的な支援も,彼の立場に立ってやりたいことが伝わるために使うことがポイントとなるはずです。

### ●具体的なヒント



更に,具体的な説明をしてもらいました。

次ページのコラム参照

今は既成のシンボルセットがたくさんあるので,参考にして絵カードも自作できますよ。

スケジュール確認はもちろんだけれど「○○したい」という意思表示がしやすいように,よく使う語いをまとめてカテゴリー毎にページを区別したブックやボードを準備すると使いやすいかもしれませんよ。

- ブックやボードはいつでも使える様に,常に身近に準備しておきましょう。
- 絵柄を統一して見やすくしたり,使う頻度の高い語いが目立つように色を変えたりするなどの工夫をしましょう。
- ブックやボードは子どもの変化や状況に合わせて語いを増やしていくことも大切です。でも,ごちゃごちゃしてきたら,作り直すことも大事ですね。パソコン,カラープリンターを上手に活用しましょう。

実物を見せてもらい参考にしながら,ユカ先生は自信をもって取り組み始めました。



### ●共に歩む

視覚的な手だてが有効と言っても,その具体的な導入手順は意外に難しいものです。実際はその子の障害の特性によって千差万別で,写真や絵カードを使えばいいというものではありません。

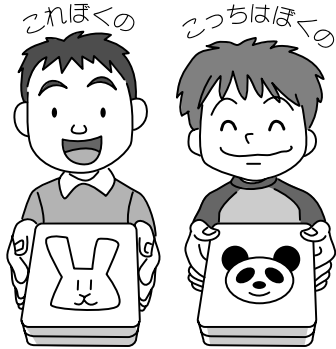
担任者会の先生方のアドバイスにより,「絵カードを使うことありき」ではなく,「好きな活動」や「言いたいこと」がある場面で,タイミングよく視覚的な支援を導入していくことがコツだと気づいたユカ先生は,自信をもってテツヤさんの支援に取り組むことができました。

その子に合った視覚的な支援を探り,子どもにとって必要感のあるコミュニケーションの手段になるようにしていきましょう。

# 視覚的な手だてとコミュニケーション

## 視覚的な手だてとは何でしょう？

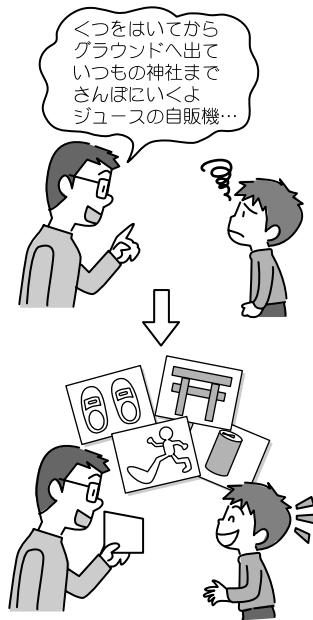
学校の中を見回すと、視覚的な手だてを使った支援方法の工夫がたくさん見られます。特別支援学級では、A君の学習セットとB君の学習セットを区別するために、それぞれに好きなキャラクターのシールがはってありませんか？ また、おそろいの上履きで、自分の靴が分かりにくいからと、おうちの方がワンポイントのマークをつけてあげているかもしれません。



これらの身近で簡単な工夫も、視覚的な手だてなのです。絵だけではありません。理解やコミュニケーションを助けるものであれば、身振りや手振り、文字さえも視覚的な手だてなのです。



## なぜ視覚的な手だてを使うのでしょうか？



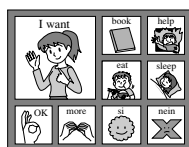
例えば自閉的な傾向のある子どもたちで、実用的な話し言葉をもたない子がいます。そういった子どもたちには、話し言葉に代わるコミュニケーション手段を用意したいですね。話し言葉の理解は苦手でも、見て理解することは得意だという特徴があります。ある程度話し言葉を理解できる子どもでも、見て理解する方が分かりやすい場合が多いようです。苦手な話し言葉のみでなく、得意な見て理解する方法を積極的に用いていく方が、全体としてコミュニケーションの力は伸びていきます。

話し言葉のような音声情報は、時にあいまいで、また抽象的で、その場で消えてしまうものです。しかし、絵カードや写真といった視覚的な手だては具体的で、その場に残ります。抽象的なことやあいまいなことが苦手な自閉症の子どもにとって、絵カードや写真の方が確かな情報であり理解しやすいのです。

## 視覚的な手だてを使ったコミュニケーション支援の方法は？

視覚的な手だてを使ったコミュニケーション支援の方法には、実物、写真、具体的な絵、シンボル、文字などがあります。これを使えば必ず子どもに有効といった定石はありません。それぞれの子どものに合った、使いやすい物を選びましょう。まずは使ってみることで、場面や状況に応じて使い分けてみたり、一緒に使ってみたりして、うまくいかないところは修正しながら進めます。その手だてが有効かどうかは、子どもが教えてくれるはずですよ。

## シンボル一つとっても様々なものがありますが,代表的なものを3つ紹介します。



PCS

- ◆ **PCS** (ピクチャーコミュニケーションシンボル) はとりわけポピュラーなものの一つです。米国ではPCSを用いたコミュニケーション機器, ソフトウェア, 解説書やビデオなどが多数開発されており, 日本向けにも販売されています。



PIC

- ◆ **PIC** (Pictogram Ideogram Communication=ピック) はカナダで開発され, その国の文化に合わせてデザインを変えた各国版が開発されています。「日本版PIC」も存在し, カード, シール, ソフトウェアなど様々な商品が発売されていて, 入手も容易です。経済産業省の「JIS絵記号」もこれを参考にしています。



PICOTシンボル

- ◆ **PICOTシンボル** (Pictorial Communication Tool=ピコット) は, スペシャルオリンピックス世界大会・長野大会の公式コミュニケーションブックに採用されたことで広まりました。信州大学教育学部, 同工学部, 上田養護学校が共同で開発した長野県発のコミュニケーションシンボルです。電子データとして活用できる形で無償で公開されていますし, 約600語のシンボルを収録したコミュニケーションブックとしても出版されているので, 導入しやすいことも特徴です。



「どのシンボルが定番なの? 学校だけでなく社会に出てからも, どこでも使えるスタンダードなものは何?」という問い掛けがあります。残念ながら「これを覚えれば大丈夫」というものはありません。その子の知覚の特性が様々なのですから「世の中の定番」ではなく「その子にとって分かりやすいもの」を取り入れていくことが大切なのではないのでしょうか。

## 実際にどのように使えるのでしょうか?



タツヤさんは放課後の言葉の学習で, パソコンに表示したシンボルを見ながら担任やボランティアの先生と話をします。彼は五十音を中心にしたコミュニケーションボードも併用していますが, よく使う単語は, シンボルのほうが, 一文字ずつ指差していくより, 早く正確に意味伝達が行えるので, 両方を併用しているのです。



マモルさんは一つの活動から次の活動への移行がスムーズにいかない生徒さんです。担任の先生は毎朝, 彼のために作った専用スケジュールボードを確認します。この特徴は, その週の予定全部が見渡せるようになっていくことです。「昨日はマラソンの後, すぐに着替えて作業に行けたね。今日も同じようにまずマラソンをして…」

というように確認していくことにより, 自己評価や意欲付けも同時に行えています。苦手だった教室移動も少しずつ早くなってきています。



視覚的な手だてをうまく活用して子どもたちのコミュニケーションの幅を広げていきたいですね。

事例  
11

# 子どもの主体性を重視した「総合的な学習の時間」の工夫

～「つける力の明確化」と「学習展開の工夫」～

中学校の特別支援学級担任のサトウ先生は「総合的な学習の時間」が単なる畑や花壇づくりで終わってしまうと悩んでいます。「体験的な学習を取り入れながら生徒が自ら学び自ら考える力を育てていく時間にしたい」と願ったサトウ先生は、生徒につける力を明確にし、それに照らしながら授業を進めてみました。また、生徒が具体的に課題をイメージできるような学習テーマの設定や学習展開の工夫を考えました。

## ●単なる花作りで終わってしまった「総合的な学習の時間」

サトウ先生の「総合的な学習の時間」への願い

- ・特別支援学級で管理している畑や花壇を生かしたい
- ・生徒が花や野菜づくりに興味関心がある
- ・体験的な学習を取り入れたい

- ・黙々と作業に打ち込んだ
- ・花や野菜が作れるようになった
- ・楽しく作業をしていた



生徒にとって自ら学び自ら考える力が育つ「総合的な学習の時間」だったのか？  
「総合的な学習の時間」で生徒につける力を明確にしなければ…

## ●生徒の“可能性の芽”を生かし、総合的な学習の時間でつける力を明確にする

タカシさん(中3)の「可能性の芽」

- ・興味をもったことには自分から積極的に取組もうとする。
- ・認められるとよい方向に努力しようとする。
- ・体験を通すとイメージが膨らみ自分からアイデアを出す。

情障学級タカシさん(中3)  
自閉傾向



「総合的な学習の時間」でタカシさんに「つける力」

評価の観点	つける力	「バーチャル海外旅行」の学習における具体的なつける力
課題設定力	調べたいことを決め出す	・行ってみたい国を決めて、旅行するとしたらどんなことを調べたいか見つけられる。
情報収集力	必要な情報を集められる	・本やインターネットを使うことができる。 ・野菜の作り方や料理について調べられる。
コミュニケーションする力	仲間と一緒に協力する	・友だちと野菜を育てたり調理実習をしたりする。 ・交流している養護学校のカオルさんの気持ちを考えることができる。
発信する力	自分の考えをまとめて発表する	・文化祭で自分の活動をまとめたり発表したりする。 ・発信を通して頑張った満足感を味わう。

### ■学習テーマ「バーチャル海外旅行」とは？

自分が行ってみたい国を決め、その国に旅行したつもりで調査活動や体験的な学習を行います。



●「バーチャル海外旅行」の実際(タカシさん(中3)の学びを中心に)

子どもの主体性を重視した展開

①課題を設定し、学習の見通しをもつ。

- ・行ってみたい国はどこ? どうして?
- ・その国に旅行するとしたらどんなことを調べたい? どうやって調べたらいい?
- ・その国の代表的な料理をつくってみんなで試食しよう。

②追究時間を十分確保する。

- ・使う野菜を畑で育てよう。いろいろな野菜の育て方を調べよう。
- ・畑でとれた野菜を使っての調理実習。技・家の実習が活用できる場面。カオルさんと仲良くつくろう。
- ・試食し合い感想を交換しよう。

③ついた力を振り返る。

- ・今までの学習を写真や絵でまとめよう。
- ・活動の様子をパワーポイントを使って文化祭で発表しよう。

タカシさん(中3)の活動と思い

学習テーマ「バーチャル海外旅行」

- ・「ぼくの憧れの国はハワイだ」とすぐに決めて、ハワイの気候、有名な観光地、ハワイの食べ物等をはりきって調べ始める。
- ・N旅行会社に電話をしてパンフレットをもらいに行く。インターネットや本を使ってハワイについて調べる。



- ・ハワイの代表的な料理のグアバハンバーガーを作るため、材料に使うレタスを畑で作りたいたいという願いをもつ。「レタスの苗を買うお金を自分たちで作れないかな?」とアイデアを出し、育てている花の苗を保護者に売る販売活動を行う。



- ・苗を購入し、水やり、草取り、支柱立て、仲間と協力し合い、夏休み中も苗の世話を続ける。
- ・いよいよ収穫を迎える。自分たちで育てた新鮮なレタスを使っての調理実習は交流している養護学校のカオルさんを招待して行う。(全2回実施)



- ・文化祭に向け、学習したことを熱心にまとめる。ステージ発表では心配しながらも全校の前で発表できる。『ステージで発表できた。今までがんばってきてよかった。(感想)』



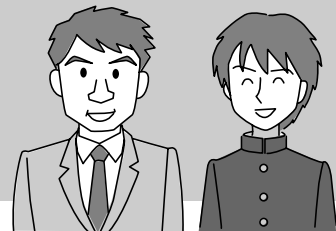
指導と評価の工夫

あらかじめ総合的な学習の時間でつける力を具体的な子どもの姿で設定する。授業ではその姿と照らしながら支援をする。

生徒が興味関心を持ち、具体的な学習方法がイメージできるテーマを設定する。

追究場面では体験的な学習を中心に追究時間を十分に確保し生徒の発想を大切にする。

学習したことを振り返り、ついた力を自覚する場面を設定する。



共に歩む

特別支援学級の「総合的な学習の時間」は、調べ学習や体験的な活動だけで終わってしまい、生徒にどのような力がついたのかあいまいになってしまうことがあります。サトウ先生は、あらかじめ、「総合的な学習の時間」でつける力を具体的な子どもの姿で設定し、授業ではその姿と照らしながら支援をしました。その結果、生徒は自ら課題を見つけ、学習内容を広げていく学びを見せました。生徒の主体性を重視した学習を展開することはもちろんですが、つける力を明確にし、生徒が自分の学びの高まりを感じられるような「総合的な学習の時間」を目指したものです。

# 教室環境の工夫

～子どもの悩みに寄り添うことを通して～

学校生活になじみにくい子どもが、各学校にはいるものです。原因は多岐にわたり簡単に解決できるものではありません。ユウコさんもそんな子どもの一人です。最近、学校を休みがちになってきました。元気もありません。そこで、ユウコさんをよく知る人たちを集めて支援チームを結成し、学校生活の様子や教室環境について話し合っ、解決策を探ってみました。

## ●ユウコさんの悩みを聞く

情緒障害特別支援学級(以下情緒障害学級)に在籍するユウコさんは、最近、学校を休みがちになってきました。このところ、元気もありません。ユウコさんが悩んでいることを聞いてみました。



ユウコさん

同じ学級のミエさんがいつも騒いでいてうるさい。注意しても聞かないし、掃除もあまりやらない。そういうことが気になっちゃう。  
学校にいと、すぐく疲れるから、朝、学校に行く気がしない。  
勉強はしたいけど、行きたくない。

## ●支援チームを結成し、解決策を探る

【テーマ】ユウコさんが感じているストレスは、何によるのか。また、その解決法は何か？

### ユウコさんの様子

- ミエさんが散らかしたものを一人で片付けようとしている。
- ミエさんの言動をととても気にしている。
- ミエさんの言動を聞くと、正さずにはいられないようだ。でも、直せるわけではなく、それがストレスになっているのではないか。

### 解決策1

- ミエさんも交えて、教室でどうしたら二人が気持ちよく過ごせるか話し合い、二人の活動スペースを分けたらどうか。
- 教室内にそれぞれのスペースをつくり、そこに入らないようルールを決めたらどうか。

### 【支援チームの構成】

- ・ 知的障害特別支援学級担任
- ・ 特別支援教育コーディネーター
- ・ 情緒障害学級の教科担任
- ・ 情緒障害学級担任
- ・ 原学級担任

- ・ 知的障害特別支援学級担任
- ・ 情緒障害学級の教科担任
- ・ 原学級担任



### ユウコさんの様子

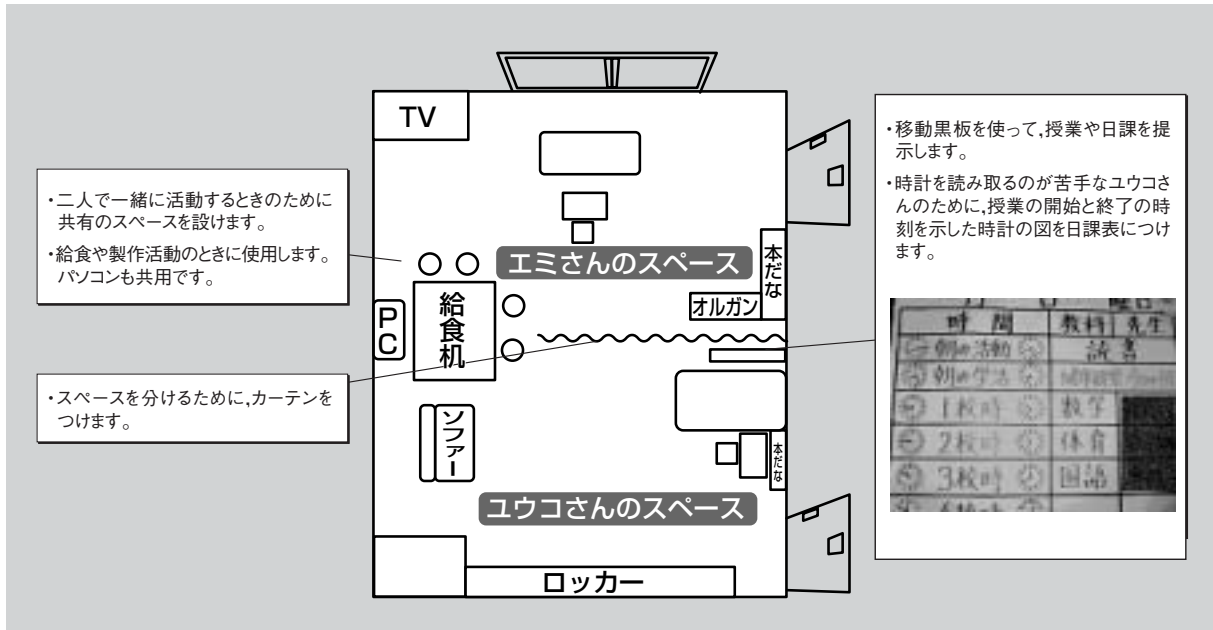
- 「休憩してもいいよ」と言っても教室の中で所在無げにしている。そうしていると、結局ミエさんの世話を焼き、けんかになってしまう。
- 「休憩してもいいよ」の声がけだけでは、ユウコさんは休むことができないようだ。

### 解決策2

- 休憩のときにすること(ユウコさんが好きなこと)を決めておいて、教室でできるように準備したらどうか。パズルやビーズのブローチ作りができそうだ。
- 生真面目なユウコさんには、休憩する時間や場所をきちんと決めておいた方がよさそうだ。

## ●教室のレイアウトを変更

話し合った解決策に基づいて、ユウコさん、ミエさんと共に教室の様様替えを提案しました。



ユウコさん、この教室環境なら落ち着いて勉強できそうかな。ミエさんの場所はミエさんに片付けてもらうから、自分の場所でしっかり勉強しようね。休み時間や勉強が終わったときは、好きなことをして休んでいいんだよ。家から、休憩の時間にやるものを持ってきてもいいですよ。

教室の半分が私の場所なんだね。自分の部屋ができたみたい。自分の場所で遊ぶようにするよ。

ここなら落ち着いて生活できそう。ミエさんの声かしてもあんまり気にならない。ミエさんも、私の場所には入ってこないよ。今度、家からジグソーパズルや好きな塗り絵の本を持ってきてもいいですか？でも、教室で休憩するのってなんだか悪いことをしているみたいで…、いいのかなあ。気になります。塗り絵やパズルをミエさんに見られるのもいやだなあ。

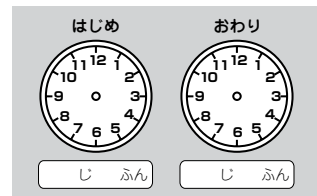
持ち物を見られるのが気になるようなら、ユウコさんの本棚にカーテンをつけて、置いてある物が見えないようにしましょう。

情緒障害学級担任

教室環境を工夫したことによって、ユウコさんは徐々に休むことが少なくなってきました。

しかし、家庭から「登校するとぐったり疲れて帰宅します。」と連絡がありました。用意されたプリントをすべてやろうと頑張りすぎていたようです。

提示する課題の量を調整するとともに、右のようなカードを用意しました。教師とともに相談しながら学習や休憩の時間を決めてカードに記入し、それにしたがって取り組むようにしました。



## 共に歩む

様々な要因で学校生活になじめなくなる子どもがいます。そうした場合、その子の悩みに寄り添い、その子について複数の目で検討して、学校生活を整えていくことが重要です。

子どもの実態によっては、本事例のように教室内のスペースを分けたり、別室を利用したりすると思いますが、教師の目が届きにくくなるので、それを補う手だてを工夫して取り組みましょう。また、かかわる子どもの納得や了解を得て進めることが不可欠です。

# 時間割の改善〔中学校〕

～生徒の力を伸ばす時間割づくり～

初めて特別支援学級の担当になったり、新たな学校に赴任したりしたときに、すでに設定されていた時間割に苦勞することがあります。例えば、一つの教科を複数の教科担任が担当する、授業が細切れに配置されているなど、生徒にとっては授業の見通しがもちにくくなりがちです。

転勤したばかりのオオヤマ先生とナカムラ先生も、時間割を改善したいと悩んでいます。

※本事例では知的障害特別支援学級を知障学級、情緒障害特別支援学級を情障学級と表記する。



知障学級担任  
オオヤマ先生

通常の学級の授業に行く時間が多いなあ。  
知障学級の教科担任は7人。数学を担当する先生が2人もいる！

知障学級の数学の先生は2人もいて、先生によって内容や教え方が変わらないかしら。  
子どもが分かりづらいのではないかと心配しています。



保護者

生徒たちは学年・学級が様々で、原学級の学習に参加する子もいるから、なかなか全員がそろわないよね。



情障学級担任  
ナカムラ先生

そして、  
授業がスタートしてみると・・・

私は数学を週1回教えているのだが、週1回だけでは生徒の学習意識が途切れてしまうので、授業しにくいなあ。



教科担任 ハラ先生



情障学級 ジュンさん

国語の時間は、毎時間違う先生が来るよ。前の時間と同じことをやることもある。  
先生に慣れるのが大変だよ。

このままでは、生徒の基礎的な力がつかないなあ。  
それに、落ち着かないせい最近トラブルが多いなあ。

## 1 校内の先生に相談し教科担任者会を開きました。

先生の入替わりが多すぎるから落ち着かないのね。特別支援学級の教科を担当する先生たちの持ち時間をもう一度見直して、各教科、できるだけ一人の先生が担当できるように検討しましょう。



### 特別支援学級で抱えていた問題

- ・固定式の時割だと生活単元学習の計画が立てやすいと思うが、スライド式の時割だと計画が直前になってしまう。
- ・一つの教科を複数の教科担任が担当する場合、学習内容の引き継ぎや指導内容・指導方法の検討がしにくく、それぞれの先生による違いに生徒が戸惑ってしまうことがある。

検討した結果を校長先生、教頭先生に伝えるとともに、時間割係、特別支援学級担任、特別支援教育コーディネーターで改善案を検討して、職員会に提案しました。持ち時間数が増える先生もいましたが、特別支援学級の生徒たちが落ち着いて学習できる状況に整えるために、すべての先生方が理解してくれました。後期の時間割のスタートに合わせて変更しました。



## 2 そして、2年目に向かう春休み

春休み、次年度の時間割をつくる作業が行われます。これまでの経緯から、特別支援学級からの要望を配慮し、優先的に時間割づくりが始まりました。

### 特別支援学級からの要望

- ①特別支援学級の教科担任の人数を少なくする。
  - ・週に1回しか会わない先生と学習を積み重ねていく事が困難なため。
  - ・例えば、A先生は知障学級2時間、情障学級1時間担当するのではなく、知障学級を3時間担当するのように整理し、担当する時間を細切れにしないようにする。
- ②できるだけ、特別支援学級担任が通常の学級の授業を持つ時間を少なくする。
  - ・個別支援のために授業補助に入ったり、TTで学習を進めたりするため。

## 3 その他にもこんな工夫ができます

- ①学級としてまとまった時間を組むために…

週に1回、連続した時間を設定しました。

特別支援学級担任ができるだけ通常の学級の授業を担当しないように、また、生徒の原学級への授業参加に配慮してもらうようにお願いしました。

NO	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	23	24	25
知障学級	国語	数学	理科	体育	生単	生単	生単	道徳	英語	音楽	社会	国語	理科	数学	英語

- ②「個別の指導計画（短期）」に基づいて、教科担任と教科の目標を共通理解し、指導内容を相談して決めるようにしました。

シリーズ参考ページ  
第1集 28ページ～

- ③原学級の授業に参加する可能性のある時間の特別支援学級の授業は、特別支援学級担任の授業にする、その生徒にとって欠かせない授業を設定しないようにするなどの配慮をします。

NO	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	23	24	25
教科3A	国語	数学	英語	体育	理科	社会	英語	道徳	理科	音楽	社会	国語	理科	数学	英語
情障学級	数学	美術	理科	作業	数学	数学	英語	道徳	国語	作業	理科	数学	国語	英語	社会

原学級の音楽を受けたいジュンさんの願いを基に設定しました。



音楽会のことが気になっていたけど、情障学級の教科の授業を休むのは心配だったし…。ナカムラ先生の作業の時間にしてくれたから行きやすくなったよ。原学級に入りにくいときは、ナカムラ先生がついてきてくれるから安心だよ。



### 共に歩む

様々な学年、学級から様々な実態の生徒たちが在籍する特別支援学級では、生徒たちが安定した気持ちで生活できたり、継続的に学習できたりするように、時間割を設定することが大切です。そのためにも、後回しになりがちな特別支援学級の時間割を優先的に対応してもらうよう協力を仰ぐことが大切です。

生徒が見通しをもって生活できるよう、分かりやすい時間割になっているか見直し、必要に応じて工夫・改善していきましょう。

# 中学校の進路学習の進め方

～体験学習を積み重ねて主体的に進路選択～

初めて中学校の特別支援学級担任になった教師にとって、生徒が主体的に卒業後の進路を選択できるよう、どのように進路学習を進めたらよいか悩むところです。この事例では、中学校3年間を見通して計画的に体験学習を積み重ね、具体的なイメージがもてるよう工夫した進路学習の事例です。

中学1年生のヒロシさんは特別支援学級に在籍しています。タナカ先生は、2学期から進路学習を始めました。しかし、将来の夢や進路先について具体的にイメージをもつことが難しいようで、思うように学習が進みません。

I

特別支援学級はじめての1歩

## ●進路学習を始めたころ（1年生）

ヒロシさんは、中学校を卒業したら、どんな進路が適しているのだろうか

将来のことなんて、イメージが湧かないよ

勉強は苦手だしなあ

ヒロシには、高校に進学してほしいわ

期末テストはどうだろう

高校進学のためにも通常の学級の授業に出てもらわないと・・・。

タナカ先生

ヒロシさん

お母さん

中学1年生のころによく見られる状況です。

タナカ先生は「個別の指導計画」や「個別の教育支援計画」を作成し、ヒロシさんの学び方の特性について検討しました。その結果、ヒロシさんは、日常生活や教科学習の中で具体的な体験場面があると理解しやすいということが分かってきました。進路学習についても体験学習が効果的であると考えました。また、進路先の情報収集や卒業までを見通した長期的な進路学習の計画を、進路指導主事の協力を得ながら立てることにしました。

「個別の教育支援計画」については、自律教育シリーズ第3集（70ページから）を参考にしてください。

## ●ヒロシさんの進路学習計画の一例

	進路先	学習の内容
進路学習	全日制高校 定時制高校 各種専門学校 養護学校高等部 就職	①学校調べ、将来の夢を考える。 ②なりたい職業を調べる。 ③先輩の話聞く。 ④学校見学 ※交通機関も調べてみよう。 ⑤職場実習。 ※その他、公共交通機関の利用の仕方、困ったときの相談の仕方、体力の養成など、日常生活や教科学習の中で取り組む学習も大切に進めます。



1年生のうちは調べ学習など知識を増やすことにポイントをおき、2年生になってからは職場実習や高校見学など、実際に体験することにポイントをおいて進路学習を組みました。

総合教育センターホームページ「中学校特殊学級進路選択のあり方」も参考になります。

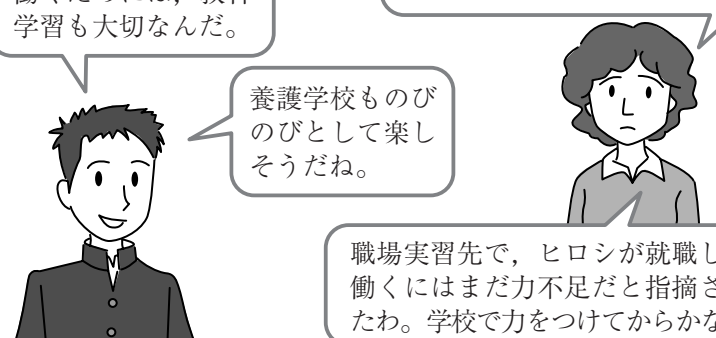
## ●体験学習の積み重ね（2年生）

2年生になると、タナカ先生はヒロシさんや保護者と相談しながら、今後の進路先として考えられる学校や事業所への体験学習に取り組みました。中学校で実施される「職場体験学習」のほかに校長先生の許可を得て、特別支援学級単独でも職場体験学習や学校見学を実施しました（下表参照）。

進路先	体験の内容	具体的な体験例
高等学校	○学校の雰囲気や活動の内容を知ることができる ○学校によっては実技体験がある	○公立高校の指定された体験入学 ○定時制・通信制高校の見学 ○私立高校は体験入学や教育相談 注) 私立高校によって方法が異なります
就職	○実際の仕事を体験できる	○事業所（企業）や作業所で実習をおこなう。
養護学校	○学校の雰囲気や活動の内容を知ることができる ○作業学習体験などがある	○教育相談，学校見学，体験入学。

11月の三者懇談会では、次のことをポイントに話し合いました。

- 個別の指導計画に基づき、中学校入学時からのヒロシさんの「育ち」について保護者と共に共通理解する（得意な面、苦手な面）。
- 体験学習を具体的に振り返る（高等学校や養護学校の雰囲気や授業の内容、在籍している生徒の様子、職場実習の仕事への取り組み方、職場の雰囲気など）。



働くって大変だね。働くためには、教科学習も大切なんだ。

うちの子は、高校に行ってもやっつけていけるのかしら？

養護学校もののびのびとして楽しそうだね。

職場実習先で、ヒロシが就職して働くにはまだ力不足だと指摘されたわ。学校で力をつけてからかな。

ヒロシさんとお母さんは、体験学習については、次のような感想をもちました。

〔ヒロシさん〕

- ・学校によって雰囲気が大きく違う。
- ・友達関係に不安がある。
- ・高校を卒業したら、どのような進路があるのか分かった。

〔お母さん〕

- ・高校の教室に入ったときのヒロシの表情がこわばっていた。
- ・授業についていくことができるのか。
- ・高校を卒業したらどうなるのだろう。

## ●主体的に進路選択（3年生）

3年生になり、タナカ先生はヒロシさんの進路について保護者と懇談する機会を増やし、内容も進学先の学校の様子や高校卒業後の生活へと移行させていきました。お母さんも、卒業後の生活を大事に考えるようになり、高校進学か養護学校高等部進学か選択する段階まできました。そんな中、ヒロシさん自身が、美容師になりたいという将来の希望をもつことができ、高校進学を決めました。自分の意志で志望校を決めたころから学習への取り組みが変わり、見事合格を果たしました。



### 共に歩む

この事例の生徒は、現在も充実した高校生活を送っていますが一方で、進学後、担任や保護者から「行かされた」という思いが募り、進路変更を余儀なくされる事例も報告されています。

重要なのは、「この学校へ行きたい！」と生徒自身が納得して進路選択できることです。そのため、進学後の生活が具体的に分かるように体験学習を積み重ねること、同時に日常生活の中で自己選択・自己決定ができる力を養うことが支援のポイントとなります。

選択した進路が生徒を成長させるに足るものであったかどうかは、5年後、10年後の生徒自身の姿から学ぶこととなります。

# 原学級でも自分らしさを

～原学級とのかかわりを深めながら～

自分の思いを話すことができるようになってきたアユミさん。

特別支援学級担任のマツヤマ先生は、原学級の子どもたちにアユミさんのことをもっと知ってもらい、アユミさんが原学級でも自分らしく活動できるようになってほしいと願っています。

どのように原学級と連携していけばよいでしょうか。

## ●アユミさんが自分らしく活動することを願って

小学校に入学したころ、1年生の教室の隅にうずくまっていることが多かったアユミさん。4月の終わりに特別支援学級に入級しましたが、自分から話すことはほとんどありませんでした。

特別支援学級担任のマツヤマ先生は、「アユミさんが自分の思いを話すことで、自分らしく活動し、楽しいことをたくさん経験できるのではないか」と考えました。そして、アユミさんが興味関心をもっている学習を通して、声を出したり話したりできるよう支援を続けました。また、行事の時には、アユミさんと一緒に原学級の活動に参加するようにしました。

3年生になり、アユミさんは特別支援学級の中では自分の思いを話せるようになり、自分らしさを出して伸び伸びと活動できるようになってきました。マツヤマ先生は、アユミさんが原学級とのかかわりを少しずつ増やし、原学級担任や子どもたちにも自分の思いを話せるようになってほしいと願いました。

## ●原学級の様子を知ろう

アユミさんと原学級のかかわりを増やすにはどうしたらよいか考え始めた時、マツヤマ先生は自分自身が原学級とのかかわりが少なく、原学級の活動についてほとんど知らないことに気づきました。

そこで、原学級の様子を知るための方法を考え、実践しました。



「こんなことができそうです」

- ・原学級の時間割や週予定をもらおう。
- ・原学級と特別支援学級の学級通信を互いにやりとりしよう。
- ・原学級の担任と直接話をできない時もあるから、連絡帳を作ってアユミさんの様子を知らせたり、原学級の情報をもらったりしよう。
- ・学年会にも積極的に参加しよう。
- ・可能なときは、アユミさんと一緒に原学級の授業に参加しよう。

そして、得た情報を基に、アユミさんが参加しやすい活動を考えてみました。



●原学級担任や子どもたちと仲良くなるう

○特別支援学級で

- ・原学級の子ども 4, 5 人に特別支援学級に来てもらい, アユミさんと話しながら給食を食べる。
- ・おやつ作りをした時, 出来上がったおやつを原学級に届ける。

○原学級で

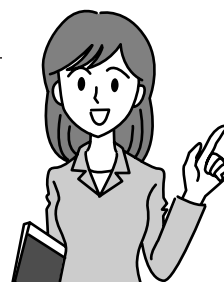
- ・原学級の授業に S T (サブティチャー) としてマツヤマ先生が加わり, 原学級の子どもたちとアユミさんが一緒に活動できるよう支援する。
- ・グループ学習では, アユミさんが話しやすい子どもたちとグループになるようにする。

うれしかった原学級担任の協力 (マツヤマ先生の話)

特別支援学級で作ったクッキーを, アユミさんと一緒に原学級に届けました。

原学級の担任は, 授業中にもかかわらず, アユミさんから子どもたち一人一人にクッキーを手渡す機会を作ってくれました。

教室の入口で帰るつもりだったので, 原学級の担任が, アユミさんを大事に受け入れ, 位置づけてくれたことをとてもうれしく思いました。

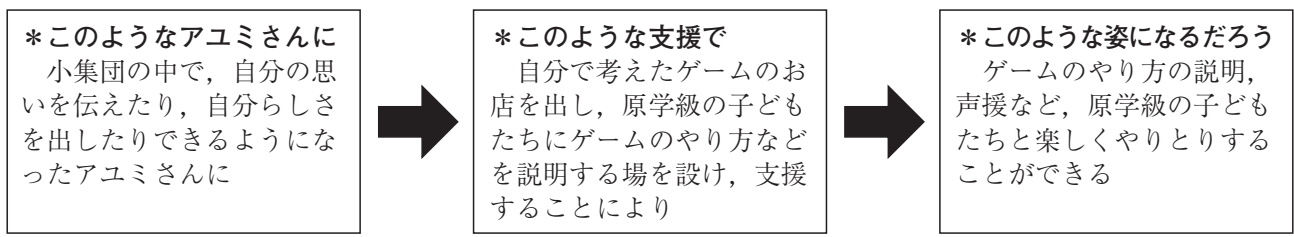


原学級担任や子どもたちとかかわる場をつくったことによって, アユミさんもマツヤマ先生と一緒になら, 原学級担任や子どもたちと少しずつ話せるようになってきました。また, 原学級の子どもたちが特別支援学級に来ることも多くなり, マツヤマ先生とも仲良くなることができました。このことは, アユミさんが原学級の子どもたちに対して安心感をもつことにつながりました。

●原学級の子どもたちとのかかわりを更に増やそう

アユミさんが原学級担任や子どもたちと話せるようになってきたので, マツヤマ先生は原学級の子どもたちと更に多くのかかわりがもてそうな「秋祭にお店を出そう」の単元を秋祭 (学校祭) に合わせて設定し, 学習するようにしました。

【単元におけるアユミさんへの願い】



この学習を通して, 原学級の子どもたちの中でも自分の思いを言葉で表せるようになり, 自分らしさを出せるようになったアユミさん。それとともに, 原学級の子どもたちもアユミさんの得意なことや苦手なことなどを知り, 気軽に声をかけてくれるようになりました。アユミさんと笑顔で話している子どもたちの姿が多く見られるようになりました。



共に歩む

原学級との連携は, 原学級担任と連絡を取り, 原学級の様子をつかむことから始めましょう。これによって, 特別支援学級の子どもに必要な情報も得ることができます。

また, 特別支援学級と原学級の担任が互いの学級の様子を知り協力すると, 互いの学級の子どもがかかわり合う場を設定することができ, 子どもたちの成長につながります。

# 安定した気持ちで行事に参加することを願って

～原学級担任と情報を共有しながら～

アキオさんは、特別支援学級での学習には自信をもって取り組むことができ、原学級の友だちと一緒に学習したいという意欲が出てきています。特別支援学級担任のタナカ先生は、アキオさんの意欲を大切にして、原学級での学習の機会を増やし、宿泊学習や修学旅行などにも安定した気持ちで参加してほしいと願っています。原学級でスムーズに活動するには、どのような支援が必要なのでしょう。

## ●アキオさんに学習予定を伝えるために

アキオさんは算数が得意で、文章題も一人で解くことができます。また、音楽が好きで、歌ったりリコーダーで演奏したりしています。そこで、アキオさんが得意で好きな算数と音楽は、原学級で学習することにしました。

タナカ先生は、アキオさんが安定した気持ちで学習できるよう、次週の学習予定（時間割）をアキオさんに知らせたいと思いました。

<次週の学習予定をアキオさんに伝えるまでの手順>



- (1)学年会で学習や行事の計画を知る。
  - ・原学級の算数と音楽の学習内容と時間割
  - ・行事と行事に向けての原学級の学習内容や時間割
  - ※学年会に参加できない時は学年会要項で確かめ、不明な点は原学級担任に確認する。
- (2)原学級の算数と音楽の授業の内、どの授業にST（サブティチャー）として加わるか決める。
  - ※特に、アキオさんが苦手とする学習内容の時には、STとして加わるよう特別支援学級の時間割を修正する。
- (3)アキオさんの次週の学習予定（時間割）を作成する。

## ●連絡ノートの活用

← シリーズ参考ページ  
第3集 44ページ

アキオさんは暑さが苦手なため、算数や音楽の授業中でも暑い時には床に寝ころんで休んだり気持ちが不安定になったりすることがあります。原学級の算数・音楽の授業のすべてにタナカ先生がSTとして参加できるわけではありません。そこで、タナカ先生は、アキオさん一人で原学級の授業に行く時には、「連絡ノート」にアキオさんのその日の様子や家庭での様子などを書き原学級担任に渡すようにしました。

○月○日（○）（算数）

特別支援学級担任から

朝から暑いので集中することが難しいようです。暑かったので、「僕はやる気がおきません」と言って、床に寝ていました。今日の図形を描く学習に取り組めるか心配です。授業の途中にアキオさんの様子を確認に行きます。集中できないようでしたら、アキオさんと一緒に特別支援学級に戻り学習したいと思います。私が行く前にやる気が起きない様子が見えたら「特別支援学級へ行って勉強しましょう」と誘って下さい。

原学級担任から

教室を一度出て行きましたが、水を飲んだら、すぐに戻ってきて授業に取り組みました。タナカ先生が来る少し前に図形を描き始めました。タナカ先生に「三角定規の真ん中を力を入れて押さえる」ことを教えてもらったので、先生がいなくなっても落ち着いて三角定規を使って図形を描いていました。

## ●行事に安定した気持ちで楽しく参加できたアキオさん

原学級での学習の機会が増えてくるとともに、アキオさんの得意なことや苦手なことを友だちが知り、アキオさんの姿をそのまま受け入れてくれるようになりました。そして、アキオさんも安定して宿泊学習・修学旅行などに参加することができました。

### 5年：遠足

タナカ先生は、遠足では、次にどこまで歩けばよいかアキオさんが分かるようにしたいと考えました。

そこで、遠足の下見に行った時に、チェックポイント（次にどこまで歩くか、その目標になる建物など）をデジタルカメラで撮影し、カードにしました。

遠足当日は、アキオさんと一緒にカードを見て次のチェックポイントを確認し、チェックポイントに着く度に記念撮影をしました。一緒に歩いた友だちも記念撮影に加わり、アキオさんは全行程を歩き通すことができました。



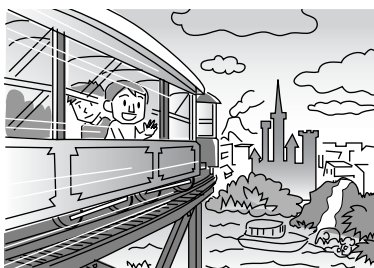
### 5年：宿泊学習（登山）

タナカ先生は、登山の時に歩く道のチェックポイントのカードを、遠足の時と同じように作りました。

登山当日は、頂上が見えるため、アキオさんはチェックポイントのカードを見ることなく、歩き続けることができました。頂上では全員で記念撮影。後でタナカ先生が宿泊学習の感想を尋ねると、アキオさんは「一番楽しかったのは登山」と答えてくれました。

### 6年：修学旅行

パンフレットや写真など事前の情報がたくさんあり、アキオさんは修学旅行でどこに行くのかイメージをもつことができました。そのため、アキオさんは旅行の計画を立てる段階から原学級の活動に参加し、友だちと一緒に係や班を決めることができました。コース別見学の内容を決める時には、自分の意見を友だちに伝える姿が見られました。遊園地でのグループを決める時にも、自分の意見を出し、怖くないアトラクションを好む友だちと同じグループになることができました。



修学旅行には、アキオさんは「友だちと一緒に行動する」というめあてをもって参加しました。駅構内の移動やコース別の見学も落ち着いてでき、友だちと一緒に行動していました。

遊園地でもグループの友だちが「アキオさん。次はこのアトラクションにしよう」などと声をかけてくれ、友だちと一緒にアトラクションを楽しむことができました。



## 共に歩む

アキオさんの個別の指導計画の長期目標には「大きな集団である原学級で、落ち着いて学習することができるようになる」が据えられています。アキオさんの「みんなと勉強したい」という意欲を大事にし、原学級担任と連携しながら原学級での学習の機会を徐々に増やし、宿泊学習や修学旅行などにも「みんなと一緒に」ということを励みとして楽しむことができました。

学年会に参加したり、連絡ノートを活用したりして、アキオさんのその時期、その日の様子をこまめに連絡し合いながら学習を進めていったことがよい結果につながったと思います。

# 効果倍増!原学級担任との協同支援

～個別の指導計画作成段階から原学級担任とともに～

個別の指導計画作成して、その子の学習内容や支援を考えるのですが、どうしても特別支援学級での学習に限られてしまいます。もし、原学級でも同じような学習ができれば、その子の育ちはより確かなものになるように思うのですが…。

## ●個別の指導計画を原学級担任と一緒に作成しよう

特別支援学級担任と原学級担任が協同で個別の指導計画を考えることにより、教育課題や学習内容、具体的な支援の方法などを明らかにしようと考えました。



### 〈原学級担任との話し合いの内容〉

- サトルさんの最近の様子から
  - ・双方の学級での様子
  - ・サトルさんのよさ
  - ・サトルさんと原学級の友だちとの関係
  - ・保護者の願い
  - ・サトルさんの課題
- サトルさんの教育課題
- 教育課題に向けた具体的な学習活動と支援

## ●サトルさんの教育課題

自分の気持ちや連絡事項を人に伝えることができるようになる。

## ●教育課題に向けた具体的な学習活動と支援・例①

～パソコンで作文を書いて発表しよう。～

### 具体的な学習活動

パソコン（平仮名入力）を使って作文を書き、特別支援学級や原学級で発表する。

※丸数字は支援の順序

#### 特別支援学級

- ①書く内容を決める際、選択できるよう幾つかの行事の写真を示す。
- ②選択した「音楽会」のことを振り返って担任と話す。担任はサトルさんの姿からよかったと感じたことを分かりやすく伝える。また、サトルさんが話したことで、作文に書けそうなことをメモする。
- ③すぐにパソコンを使って文章を入力できるよう書式はあらかじめ設定しておく。
- ④パソコン入力を見守り、支援を求められたら対応する。教師に支援を求めずパソコン入力できた時は称賛する。
- ⑦発表に向けて、作文の音読をするようにする。
- ⑧特別支援学級の友だちの前で発表したり、友だちの発表を聞いたりし、評価し合う。

#### 原学級

- ③特別支援学級と同じ内容の作文の単元に入る。
- ④朝の会で、音楽会の様子をうつしたビデオをサトルさんと一緒に視聴する。
- ⑨サトルさんにとって過度な負担にならないよう、学級全体の前での発表ではなく、生活グループ（4人）の中でサトルさんも作文を発表する。
- ⑩生活グループの中で、互いの作文を簡単に評価し合う。





原学級の友だちの感想から

- 一生懸命練習している様子が、「あせをかいてやりました」という文から分かりました。
- ゆっくり大きな声で発表ができたと思います。
- 挿絵が入れてあっていいし、漢字がたくさん使っていていいです。

パソコンの使用は保護者の希望でもありました。サトルさんは、筆記よりもさらに意欲的に取り組みました。

また、原学級での作文発表に向けめあてをもって作文の音読に取り組むことができました。友だちの感想を聞いて、笑顔いっぱいのサトルさんでした。

●教育課題に向けた具体的な学習活動と支援・例②

～朝の会で「一日の予定の発表」をしよう。～

具体的な学習活動（抜粋）

朝の会で「一日の時間割の発表」をする。

※数字は支援の順序を表しています

特別支援学級

- ①朝の会の「一日の時間割の発表」をサトルさんに任せる。
- ②発表できたら、大きな拍手をして、「大きな声でゆっくり言えたね。」などと称賛する。
- ⑥「一日、頑張りましょう。」とサトルさんと一緒に言う。
- ⑦「一日、頑張りましょう。」が言えるようになったら、次は「今日は、〇〇が楽しみです。」などと言えるよう担任が楽しみにしていることを尋ねる。
- ⑧ホワイトボードを用意し、サトルさんが書き込めるようにして、明日の発表の準備ができるようにする。

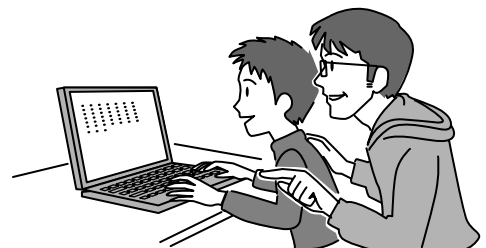
原学級

- ③朝の会の「一日の時間割の発表」をサトルさんに任せる。
- ④発表の後には、必ず拍手し、担任は「大きな声でゆっくり言えたね。」などと称賛する。
- ⑤係が次の日の時間割を黒板に記入する時、サトルさんが担任から明日の予定を聞いて係に伝えるようにする。
- ⑥「一日、頑張りましょう。」とサトルさんと一緒に言う。
- ⑦「一日、頑張りましょう。」が言えるようになったら、次は「今日は、〇〇が楽しみです。」などと言えるよう担任が楽しみにしていることを尋ねる。

サトルさんに「一日の時間割の発表は、自分の仕事だ」といった自覚が芽生え始め、毎日はりきって発表に取り組んでいます。

●家庭からの声（父親の話）

パソコンを通して、文字入力ができるようになったこともうれしいですが、一緒にパソコンを使うことでサトルと接する時間が増え、よかったと思います。今はサトルが大好きな車のことをインターネットで検索しています。



共に歩む

個別の指導計画に書かれた学習内容や支援が、原学級においても実践できれば、その子の成長はより確かなものになります。本事例では、特別支援学級担任と原学級担任で、個別の指導計画作成の段階から話し合う機会をもちました。

保護者から喜びの声が届き、うれしく思いました。



# 保護者の思いに共感する大切さ

～保護者への支援を～

特別支援学級担任のオカダ先生はトモコさんへの支援について、保護者の理解を得ていると思っていました。しかし、あるトラブルをきっかけに保護者との間に溝を感じるようになりました。そして、保護者が一番心配していることを、あまり大切に考えていなかったことに気がつきました。これからは保護者と共に子どもを支えていきたいと思うのですが…。

## ●ある日のこと

トモコさんは気持ちが不安定になると、友だちに乱暴な行為をすることがあり、特別支援学級担任のオカダ先生が制止していました。そのため、トモコさんが原学級の授業に出る時にオカダ先生がついて行ったり、原学級で落ち着かない様子が見られた時はオカダ先生が迎えに行ったりしていました。

しかし、高学年になったトモコさんは落ち着いて生活できるようになり、安心して原学級の授業に送り出せるようになったとオカダ先生は思っていました。そんなある日、トモコさんは、トモコさんが座り込んでいることを心配し声をかけてくれた原学級のノリコさんにけがをさせてしまいました。

トモコさんは続いていた暑さと疲れのせいで機嫌が悪かったのです。



ノリコさんには申し訳ないことをしたと思います。ノリコさんの家に謝りに行ってきました。原学級へはいつもオカダ先生と一緒に行くようにしてください。それだけをお願いします。



トモコさんの母親



ノリコさんの母親

ノリコがトモコさんを許すことができる優しい子であることが、とてもうれしい。でも、けがはさせられたくない。トモコさんにきちんと指導してください。

ごめんなさい。もうしないよ。(原学級に)行けなくなるの、いやだよ。



トモコさん



ノリコさん

心配して声をかけたら、こんなことになっちゃった。どうして？トモコちゃんのこと好きだけど、乱暴されるのは嫌だな。

## ●トモコさんの母親の話

トモコさんのお母さんは、学校に来て「また周りの子どもたちにけがをさせるのではないかと心配です。」「本当は、特別支援学級でオカダ先生と学習してくれるだけでいいと思っています。」「トモコは、原学級には行かなくてもいいです。」と話してくれました。

そして、トモコさんが原学級の授業に参加していても、原学級の参観には来てもらえなくなりました。

## ●オカダ先生の思い

オカダ先生は、トモコさんの母親の立場に立って今回のトラブルについて考えてみました。トモコさんの母親には「子どもが特別支援学級に在籍していることへの複雑な気持ち」「子どもが友だちに乱暴なことをしないかと、ずっと心配している大変さ」「トラブルの度に、相手の子の保護者に謝る辛さ」があるのではないかと想像しました。



オカダ先生

そして、トモコさんの母親を支える上で一番大切なことは、原学級のサカモト先生や保護者が「トモコさん、頑張っているね。」などと声をかけてくれることだと気づきました。

## ● 原学級の担任・子どもたち・保護者への働きかけ

- ①原学級の子どもたちに、トモコさんが頑張っていること、叩いたり蹴ったりした理由を今以上に伝える。また、原学級の子どもたちの存在が、トモコさんの支えとなっていることも伝える。
- ②オカダ先生自身がPTAの会議や行事に積極的にかかわり、原学級の保護者と話せるようになり、原学級の保護者とトモコさんの母親をつなぐ役を果たす。
- ③全保護者を対象とした校長講話の中で、特別支援教育について触れていただく。
- ④トモコさんの母親のことを心配してくれている原学級の母親に、トモコさんの母親に声をかけてくれるようお願いする。
- ⑤原学級の保護者懇談会で、担任のサカモト先生にトモコさんのことについて話してもらう。また、オカダ先生自身も出席し、トモコさんの様子や母親の思い、原学級の子どもたちがトモコさんを支えている様子などを伝える。

## ● その後

- ・原学級担任のサカモト先生は、トモコさんがこれまで通り原学級で学習できるよう配慮し、子ども同士で助け合うよう指導してくれました。トモコさんは前以上に喜んで原学級での学習に参加しています。
- ・原学級のある母親が、トモコさんの母親に必ず声をかけてくれるようになりました。
- ・オカダ先生はこれまで以上に、トモコさんの母親にトモコさんの様子や原学級の友だちとのかかわりを伝えるよう心がけました。トモコさんの母親は、特別支援学級にかかわることには、これまで通り協力してくれ、「原学級での学習をどうするかは、オカダ先生に任せます。」と言ってくれました。しかし、原学級と一緒にの行事などには参加しない状態が続いています。オカダ先生は、努力を続けていけば、いつかトモコさんのお母さんが心を開いてくれるのではないかと考えています。



## 共に歩む

- ・担任との関係が良好だと思っている家庭でも、あるトラブルをきっかけに、連携がうまくいかなることがあります。保護者の思いに立ち返るとともに、今できる支援を改めて考え直すことが必要です。本事例では、原学級の子どもたちや保護者に特別支援学級について理解してもらうことが、特別支援学級の子どもやその保護者を支えることにつながると考え取り組みました。

# 保護者に学ぶ

～お母さんはその子についてのプロフェッショナル～

ヤマダ先生は以前にも特別支援学級の担任をしたことがあります。障害のある子どもへの対応の仕方は分かっているつもりでした。ところが、今度担任したタカシさんは「好きな活動には集中して時間一杯取り組む」というよい点がある反面、よくパニックを起こします。日によって、好きな活動にも取り組めないことがあります。ヤマダ先生は「いったいどんな対応をすれば、タカシさんが安定して学校生活を送ることができるのだろうか」と悩んでいます。

## ●パニックになったら、どう対応するの？

国語の漢字学習の途中で、筆箱の中を見たタカシさんは、消しゴムがないことに気がつきました。タカシさんは大きな声で叫び泣き出しました。

ヤマダ先生は朝からのタカシさんの行動を思い出し、「図書館で本を借りた時に置いてきたのではないか」と思い、図書館に行ってみました。図書館には消しゴムはありませんでした。

「原学級の算数の授業で使った時に忘れたのかな」とも思い、原学級にも行きました。ありました。特別支援学級に戻り、「タカシさん。あったよ」と消しゴムを渡すとタカシさんは泣きやんで漢字学習の続きを始めました。

僕の消しゴムがない!?



タカシさん



ヤマダ先生

消しゴムが見つかってよかった。見つからなかったら、タカシさんに何と云えばいいんだろう。  
家でも同じようなことがあるのかな。  
お母さんに聞いてみよう!

### お母さんの話

ご迷惑をかけました。タカシが今使っているのと同じくらい使った消しゴムを先生に預けます。もし、消しゴムをなくした時は、それを見せながら「ほら、落ちていたよ」と話してください。

数日後、また消しゴムがなくなり、タカシさんが泣き出しました。ヤマダ先生は、その日タカシさんが行った場所を探しましたが、消しゴムは見つかりません。そこで、ヤマダ先生は「ほら、落ちていたよ」といいながらお母さんから預かっていた消しゴムをタカシさんに渡しました。すると、タカシさんは泣きやみました。

ヤマダ先生はタカシさんの生活を見返し、消しゴムの他になくした時にパニックになる可能性のある物は何か考えました。

そして、お母さんに鉛筆・ポケットティッシュ・ハンカチなどを用意してもらい、ヤマダ先生が預かるようにしました。

## ●学習に取りかかれなくても、どうしたらいいの？

タカシさんは算数が好きで、計算問題に喜んで取り組みます。ところが、暑さのせいか3日続けて取りかかることができません。問題数を減らしたり、簡単な問題に代えたりしましたが、タカシさんはやる気が起きないようです。



ヤマダ先生

タカシさんは毎日宿題を必ずやってくる。家ではどうやっているのだろう。お母さんに聞いてみよう！



### お母さんの話

宿題はいつも喜んでやっているわけじゃないですよ。宿題の後に食べるおやつを用意しています。それでもだめな時には、ポイントシールをあげる約束をします。ポイントがたまると、大好きなゲームができることになっているんですよ。また、「宿題をやると、サンタさんがプレゼントを持ってきてくれますよ」と話すこともあります。

計算問題を始める前に、ヤマダ先生はタカシさんの大好きな折り紙を見せながら「計算を全部やったら、次に折り紙やろうね」と声をかけてみました。タカシさんは、「次に折り紙」と言いながら計算問題に取りかかることができました。

## ●特別支援学級内の物の配置を変えたいけれど、大丈夫かな？

タカシさんは物の位置が変わったり、あった物がなくなったりすると、何回も同じことを聞いたり、なくなった物を探したりします。

ヤマダ先生は他の子ども（1年生）のために物を片付けて、教室を使いやすくしようと考えました。「1年生のために教室の中を変えます。タカシさんの机が動きます。いいですか」とタカシさんに話すと、タカシさんは「いいです。」とこたえながらも「嫌だ」という気持ちを草稿で表しました。

ヤマダ先生は「タカシさんに受け入れてもらうには、どう話したらいいのだろう」と困ってしまいました。

お母さん。  
教えてください！



ヤマダ先生

### お母さんの話

実は家の改築をする時に、私も困ってしまったの。そこで、タカシの好きなゲームとテレビ番組で使われている言葉をまじえてこう言ったの。「今の家を【ビフォーアフター】することにしたの。今よりも【バージョンアップ】することにしたんだよ。どう？楽しみでしょう」そうしたら、変わることを受け入れて、変わった後も大丈夫だったんですよ。変える前によく説明をして、【ビフォーアフター】【バージョンアップ】の言葉で期待させてみてください。

ヤマダ先生は早速タカシさんに説明しました。

「タカシさん、1年生のために教室を【ビフォーアフター】することにしました。タカシさんの机の場所は【バージョンアップ】します。楽しみでしょう。」

タカシさんはにっこり笑って「【ビフォーアフター】で【バージョンアップ】！」と言いました。タカシさんは机を移動した後も落ち着いて勉強に取り組んでいます。



## 共に歩む

こだわりやパニックへの対応の仕方は、子どもによって微妙に違います。その子がどんな時に頑張れるか、一番よく知っているのは保護者です。その子のことを理解し、愛情を持って育ててこられた保護者に、誠意をもって相談することで、キーワードとなる「ことば」や対応の「ヒント」をたくさんもらうことができます。その子についてのプロフェッショナルである保護者にたくさんのお話を教えていただきましょう。



# 校内の連携を大切に

～連絡カードを活用した授業者間の情報交換～

集団の中で生活することが難しい生徒の登下校にはいつも気がつかれます。特に、友だちに会うことをさけるために遅刻する生徒もいます。

ナカムラ先生は、特別支援学級の生徒が登校する前に、通常の学級の授業に行かなくてはならないことがあります。特別支援学級の生徒に朝会うことができず、ゆっくり話を聞いてあげることができません。ナカムラ先生は、これでは生徒との信頼関係も作りづらいし、継続的な指導もできないと悩んでいます。

昨日も少ししか眠れなかった。  
早くふとんに入っても眠れないんだ…。  
親は「仕方ないよ」って。  
ナカムラ先生に話そうと思っても、授業だから行っちゃう。  
どうせ僕のことなんか…。



ユウジさん

ユウジさんは、朝、調子がよくないことが多いなあ。何か心配事でもあるのかな。  
話を聞いてあげたいけれど、通常の学級の授業に行かなくては…。

もっとうちの子のことをよく見てください。  
十分な支援をしてもらえると入級したのに…。



ユウジさんの保護者



特別支援学級担任 ナカムラ先生

ユウジさんは登校する時刻がだんだん遅くなり、欠席もするようになってきました…。

このままでは、ユウジさんは登校できなくなってしまうかもしれない。  
どうしたらいいだろう。



そこで、校内小委員会（特別支援教育コーディネーター・特別支援学級担任・原学級担任・教科担任）を開き、ユウジさんを支える手だての一つとして「連絡カードの活用」を試みることにしました。

## ●連絡カードの活用にあたっての確認事項

- ①朝、特別支援学級担任が生徒の様子を連絡カードに記入し、特別支援学級の1時間目の授業者（教科担任）に渡す。  
※ 生徒が登校していない時はその旨を記入し1時間目の授業者に渡す。
- ②授業者が生徒の登校時刻や授業の様子を連絡カードに記入し、次の授業者に渡す。
- ③連絡カードへの記入は、2行程度のメモとする。
- ④連絡カードへの記入だけでなく、立ち話でもいいので口頭で連絡し合う。



●連絡カードは、こんなふうに使っています。

情緒障害特別支援学級 アツコさん（3年女子）・ユウジさん（2年男子）

登校	アツコさん 7:30 ユウジさん 8:50			下校	アツコさん ルイさんと下校 ユウジさん 部活へ
○ 月 ○ 日 ○ 曜 日	時	No.教科等	授業者	学習内容	気づいたこと・申し送り
	朝		ナカムラ (担任)		アツコさん「もう帰りたい」と言っています。話を聞いてあげてください。ユウジさん、まだ登校していません。
	1	2 英語	マキタ	アツコさん:Lesson3 ユウジさん:Lesson3	アツコさん、始めの5分ほど雑談をしました。その後、張り切ってやっていた。ユウジさん8:50にきました。少し話を聞き授業に入りました。
	2	3 数学	コイケ	アツコさん:代入法 → ユウジさん:単元テスト→	代入法も加減法もマスターしています。よく理解できています。文字式の説明が課題。
	3	4 音楽	ワダ	アツコさん:箏 ユウジさん:Best friend	アツコさん、箏のテクニックはだいぶあがってきました。ユウジさん、あまり元気がなかったです。少し家の話を聞きました。
	4	5 作業	ナカムラ (担任)	コラージュ	10組の友だちと一緒にの授業でした。作業はあまり進みませんでしたが、友だちと話ができて、二人とも気分転換になったようです。
昼					

○枠と太字の文字はあらかじめ印刷しておきます。

○朝の『気づいたこと・申し送り』の欄には、特別支援学級担任のナカムラ先生が生徒の朝の様子を記入します。時には、授業者（教科担任）へお願いしたいことを記入することもあります。

○1時間目以降の『No.教科等』、『授業者』、『学習内容』、『気づいたこと・申し送り』の欄は授業者が記入します。

○ナカムラ先生は、休み時間にも連絡カードを見て特別支援学級の生徒の様子を確認するようにしています。そして、生徒の体調がすぐれない時などには、カナイ教頭先生や養護教諭のコバヤシ先生と連絡を取り、対応しています。

○連絡カードは、生徒のその日の学習の記録となります。ナカムラ先生は、連絡カードをつづり、保護者懇談会の資料や個別の指導計画の見直しの資料として役立てています。

遅れてきても、先生が話を聞いてくれてホッとするよ。



連絡カードを見ることで、他の授業の様子も分かり、生徒に寄り添った声かけができるようになりました。



共に歩む

生徒のその日の様子を知って、声をかけることは大切です。連絡カードを活用することで、多くの先生が生徒の様子を知ることができ、その子に寄り添った声かけをすることができます。また、連絡カードは、職員が連携して生徒を支援する際の資料としても役立ちます。

# 積極的な情報交換

～気楽にミーティングを～

特別支援学級での子どもの生活がうまくいっていない時に、そのことを誰かに相談することは勇気のいることです。また、保護者の願いを大切にしたいと思っても、なかなかよい考えが浮かばないこともあります。

追い詰められたような気持ちになったとき、相談できる相手はいますか？

## ●「うちの子のことも、もっと考えてください。」



マサヒデさん



ゴロウさん

マサヒデさんが大きな声をあげると、気が散って何もできないんだ。  
イジマ先生もマサヒデさんのところに行っちゃって、僕は何をしたらいいかわからないんだ。

ゴロウさんはだんだん学校を休みがちになりました。  
心配したゴロウさんの保護者が学校に相談に来ました。

ゴロウさんも落ち着いて学習できるように考えてみます。

ゴロウが、学校に行くのを嫌がるようになっていきます。  
他のお子さんに対応しなくてはいけないことは分かりますが、ゴロウにかかわる時間もつくってほしいんです。  
うちの子のことも、もっと考えてください。



ゴロウさんの両親



イジマ先生

一人で悩んでいても、いい知恵は浮かばないよ。  
みんなで考えてみましょう。

お父さんやお母さんの言うことはよく分かるし、その通りなんだけど、マサヒデさんが落ち着かなくなると、マサヒデさんについていなければならない。その間、ゴロウさんの支援をどうしたらいいんだろう。  
来週もゴロウさんのお父さんとお母さんが学校に来るけど、来週までに何をしたらいいんだろう…。  
ミズノ先生、相談にのってください。

特別支援教育  
コーディネーター  
ミズノ先生



イジマ先生の悩み

## ●ミーティングを開こう

相談を受けたミズノ先生は、特別支援学級の様子をよく知る職員数名にすぐに声をかけ、翌日の放課後にミーティングを開くことにしました。

### テーマ

ゴロウさんがいい表情で取り組んでいた場面を取り上げて、ゴロウさんが安心して学校で過ごせる条件を考えよう。



自分でやる枚数を決めて数学のプリントをやっている時は、一人で落ち着いて学習を続けていたなあ。



電車の絵の話をする時、家でかいた作品を見せてくれて、とてもうれしそうだった。あの活動を学校でも生かしたいなあ。



自分のやることははっきりしていたら、たとえ先生がいなくなっても、落ち着いていられそうです。



電車のことを調べたり電車の絵をかいたりすること、パズルを一人の時にやるようにしたいと思います。



- 「退屈」「何をやったらいいのかわからない時間」がゴロウさんのストレスになっていますね。
- 生真面目なゴロウさんには、一人になった時にやることを提案することも大切です。学習だけでなく、楽しい時間も提案しましょう。
- マサヒデさんの対応の仕方、チームで考えていきましょう。

緊急にミーティングを開く場合には、参加者を少なくして、すみやかに開くことを重視します。

また、ミーティングのテーマを明確にし、1時間程度で終了するようにします。

一度だけではなく、実施日時とテーマを明確にして、繰り返し行うと効果的です。



### 今後の方向決める



- 一人でも取り組める課題プリントを常に用意しておく。
- ゴロウさんが好きな電車の絵をかく、ジグソーパズルなどができるよう準備し、いつやるか、どこでやるかといったルールをゴロウさんと相談して決める。

## ●保護者に伝える



翌週ゴロウさんの保護者が再び訪ねてきました。イイジマ先生はミズノ先生と二人で懇談することになりました。

そして、ミーティングで話し合った内容を基に、ゴロウさんの好きな活動を学校でも取り入れ、イイジマ先生が一对一でゴロウさんを支援する時間を取るようにしたいと話しました。



### 共に歩む

忙しい学校現場では相談する相手も限られ、特別支援学級担任が一人で悩むこともあります。特に学級の中がうまくいかず、そのことで保護者と話をしなければならないときには、追い詰められた気分になってしまうことがあります。

学級のことをよく知る職員で気軽に話し合う機会を持ち、知恵を出し合ひましょう。

# 校内支援体制の充実に向けて

～ケース会議で生徒理解を深める～

トオルさんへの特別な教育的支援を校内支援体制の中で考え始めたS中学校でしたが、トオルさんの急激な変化や保護者との意見のくいちがい等、事態は一向に良くなりません。そのような中で職員は「トオルさんを理解したい。」と言う気持ちを一層強くもちました。職員研修、外部機関への働きかけ、さらには学校体制の改善、様々な試みの中からトオルさんが少しずつ変わり始めました。

## ●トオルさんをどう理解したらよいか分からない職員

個別の指導計画を作成し職員会で支援の方向を検討し、特別支援教育コーディネーターを中心とした校内委員会を設置しました。

トオルさんの良さは何だろう？トオルさんがしたいことは何？

トオルさんのできそうな学習は？



職員  
トオルさん中1

トオルさんの状況に応じた支援の仕方を確認しよう。

### 学習に消極的なトオルさん



トオルさん

- ・小学校では本人の気の向いた時間に特別支援学級で学習していた。
- ・中学校では授業に参加できず、職員室や体育館等で遊ぶ毎日。「勉強は小学校であきらめた。今更やっても仕方ない。」
- ・空き時間の職員が個別学習をするが、「こんな優しい問題、バカにするのか。」と言い、一方「こんな難しい問題は無理だ。」と何もしない。
- ・注意すると「命令するのか。」と興奮する。
- ・「家に帰ってもつまらない。」と毎日登校し、夕方遅くまで帰ろうとしない。

- ・病院の医師や臨床心理士からトオルさんの障害についての話を聞く。(職員研修の実施)
- ・地域の養護学校コーディネーターに来校していただき、アドバイスを受ける。

## ●トオルさんの障害への理解が職員間に共有されてもトオルさんの状態は変わりません

トオルは家では問題ありません。

両親

子どもの行動に対して注意ができません。

まず、学校での支援のあり方を検討することにしました。



ケース会議

相変わらず気に入らないことがあると急に乱暴になります。

学校はトオルさんが落ち着くように見守るしかないのか...

### 益々まわりを拒絶していくトオルさん



トオルさん

- ・「学習しても分からない。」
- ・「分からないのに勉強しろと言われる。できねえおれの気持ち分かるか。」
- ・「本当はきれたくないがどうしていいかわからん。おれは何をしたらいいんだ。」
- ・「反抗しないから学校にいたい。」

・様々な機関や親と共に「トオルさんの学びの場」づくりの相談・協力が**必要**だ。

●「外部機関」との連携を探り始めたが・・・

保護者が積極的に治療を求めないと治療はできません。

外部機関に働きかけながらもう一度、校内体制を見直してみよう。

何かあったら学校に行きます。家庭訪問もします。先生方、一緒に頑張りましょう。

もう少し様子を見て対応しましょう。

医師

教育委員会 児童相談所、保健所等

ケース会議

●「校内体制」で新たな試み

トオルさんの好きなスポーツと一緒にやりながら話を聞きます。

トオルさんは学校内に自分を受け入れてくれる居場所を求めていたんだ。

でも、タカダ先生だけにまかせておいていいのかな・・・

行動が落ち着き始めたトオルさん

「タカダ先生バスケットしようぜ。」等と、タカダ先生をスポーツに誘う。  
・自らタカダ先生に話しかけるようになり、乱暴に振る舞うことが少なくなる。

タカダ先生

ケース会議

適応指導員として加配されたタカダ先生を中心に校内体制を再構築しました。

●トオルさんの変容で、他の生徒のことも理解しようと動き出す職員

トオルさんのための活動の場、時間に対応できる職員がいることでトオルさんは落ち着いてくるんだ。

トオルさんの行動パターンが予測できると接し方にも余裕が出てきた。

タカダ先生だけでなく、他の職員も取り組んでいるという姿がトオルさんに伝わってきたね。

苦手なことにも取り組み始めたトオルさん

「自分」を意識して行動しようとする事が多くなる。「僕は暴力はやめるんだ。」  
・「タカダ先生、たまには勉強しよう。」「家はずまらない。学校がいい。」

トオルさん

ケース会議

父親は忘れ物を学校に届けてくれるようになってきた。もう少し、トオルさんの気持ちに寄り添ってもらえるよう学校から働きかけよう。

トオルさんのケース会議を通して他の生徒も理解しようと動き出した職員。不登校の生徒に対するケース会議も行われるようになりました。

共 に 歩 む

特別な教育的支援が必要な生徒への対応で、校内支援体制がうまく機能しないと感じている学校は、生徒の変化に応じてケース会議を開いてみましょう。「この子をもう少し理解してみよう。」「校内で可能な支援がまだあるかも。」などと、職員の意見を重ねてアイデアを出し合うことで、校内支援体制は機能するようになってきます。職員の前向きな姿勢は子どもの心にきっと届きます。



# 時間いっぱい授業に参加できるように

～スクールカウンセラーの助言を生かした支援～

マサオさんは中学校に入学してから、環境が変わったためか一日の日課の流れがつかめず、パニックを起こすことが多くなりました。また、授業中はノートに絵を描くなど、学習に集中できない状態が続いています。担任としては、具体的な手立てが分からず悩んでいます。

## ●マサオさんは、いろいろな場面で行動に落ち着きがなく困ったな？

授業が始まって、集中できないようです。(教科担任)

行動に落ち着きがなく困ったな… 棚の中に隠れるということもあるし…

休み時間に虫取りに夢中だけど次の授業に間に合うのかな？(友だち)

特別支援学級のミズノ先生はサトウ先生に相談しました

授業が始まって廊下にいることがありますよ。(養護教諭)

＜スクールカウンセラー・サトウ先生からのことば＞

授業参観をして、マサオさんへのかかわり方を一緒に考えましょう。まず、マサオさんの話を聞きたいと思います。

## ●スクールカウンセラー・サトウ先生からの助言

### ＜助言1＞

授業はスモールステップで行い、短い時間の中で集中できるようにしたらどうでしょうか。短い休憩時間を入れて目標をもてるようにしましょう。

### ＜助言2＞

視覚を通して、一日の日課を分かりやすく掲示をしましょう。日課の変更があるときは、早めにマサオさんに伝えましょう。

### ＜助言3＞

落ち着きのない時には、じっくりとマサオさんの話を聞きましょう。できるだけ、マンツーマンの時間をとりましょう。

サトウ先生の助言をもとにミズノ先生は、教科担任者会でマサオさんへの支援を考えました。

## ●授業中、学習に集中できないマサオさんへの支援

- 1時間通しての授業は、なかなか集中できないマサオさんに、ドリル学習を採りいれて、15分学習したら5分間休憩時間を取り、後半の学習を行うようにしました。慣れてきたら少しずつ時間を延ばしていくようにしました。
- 教科担任へも、マサオさんに対して同じような支援をお願いしました。
- 視覚的に興味がわくような板書の工夫をしました。  
(文字を大きくしたり・項目ごとにチョークの色を変えたりするなど)

＜変容：学習に向かう姿勢が改善されてきたマサオさん＞

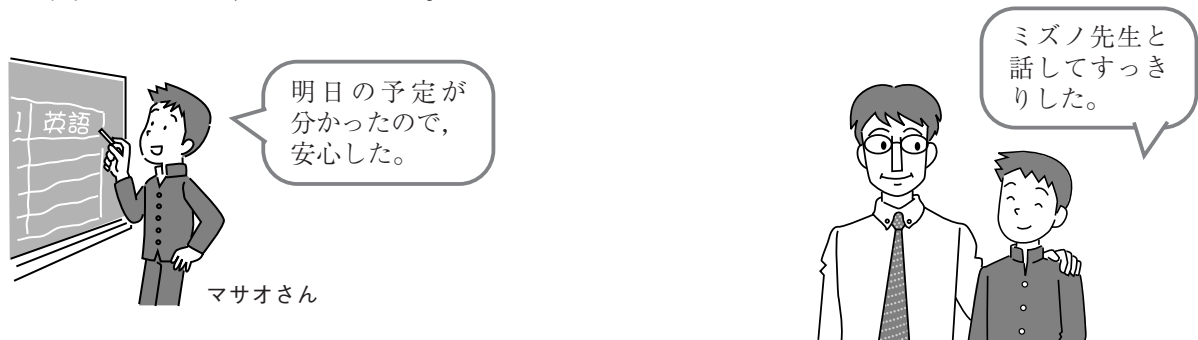
- ・初めは時間が気になり「あと何分で休憩」と尋ねていたマサオさんでしたが、目標をもって15分間程は集中して学習できるようになりました。
- ・ノートのまとめ方も自分で工夫して、板書のとおり色を変えて、まとめるなど学習も興味をもち、楽しく行えるようになってきました。

●授業が始まって虫取りしていたり、教室に入らなかったりするマサオさんへの支援

- 予定黑板に次の日の予定を書くのを、マサオさんの分担にしました。  
(明日の教科のスライド・給食や清掃の時間・下校時刻・持ち物など)

＜変容：日課が分かり安心して一日を過ごせるようになってきました＞

- ・毎日継続して予定を板書することで、その日の日課に見通しをもつことができ、パニックを起こしたり、授業に遅れたりすることがなくなってきました。



●落ち着かないと棚の中に隠れてしまうマサオさんへの支援

- 授業のスライドの中に、マサオさんとのマンツーマンの時間があります。授業の始めの20分間をマサオさんの悩み相談・興味関心のあることなどをじっくり聞く時間をとりました。

＜変容：マサオさんからミズノ先生に話かけるようになってきました＞

- ・初めは、ミズノ先生からマサオさんに質問をして会話をすることが多かったのですが、そのうちに、マサオさんからミズノ先生へ話かけるようになってきました。マサオさんの悩みや興味のあることが分かり、だんだんと楽しい会話が続くようになってきました。

●3年になったマサオさんとミズノ先生

1年生の頃は、授業が始まって、学習になかなか集中できなかつたり、その日の予定が急に変更になると教室移動できなかつたりしたマサオさん。3年生になった現在、50分授業の時間いっぱい取り組むことができるようになってきました。スクールカウンセラーのサトウ先生の助言をもとに、ミズノ先生は、授業での時間の使い方や、適切な課題の持ち方を試行錯誤しながら支援を続けてきました。そして、教科担任の先生方にも同じような支援のしかたをお願いしてきたので、マサオさんは前向きな姿勢で授業を受けられるようになってきました。



共に歩む

スクールカウンセラーの先生から助言いただいたことで、担任がマサオさんへの支援の方向を理解することができました。担任一人で抱え込まず、相談者を求めたことが大変有効であったと思います。助言されたことをそのまま受け入れるのではなく、学校のどの場面でどのように生かしていけるのかを、探っていきましょう。教科担任とも情報を交換して、継続した支援となるようにすることが大切です。

# 連携で得た情報を学校生活へ

～保護者、医療、福祉機関の方との連携～

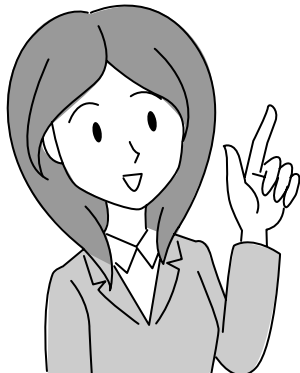
4月になって環境が変わり、イチロウさんは、気持ちが不安定になると激しく泣き続けたり、周りにいる先生や友だちに突然つかみかかったりします。イチロウさんが安定した生活を送れるようにするにはどのように支援したらよいか、特別支援学級のナガシマ先生は一人で悩んでいる毎日です。保護者もイチロウさんの最近の様子を心配しています。こんなときは、どうしたらよいのでしょうか？

ナガシマ先生は、イチロウさんが不安定になる状況を「何とかしなくては」と思いながらも、よい支援の方法が見つからず一人で悩んでいます。



## ●特別支援教育コーディネーターの先生と協力して（情報交換を積極的に）

ナガシマ先生の姿を見て、特別支援教育コーディネーターの先生が心配して声をかけてくれました。そして、イチロウさんの教室での様子や自分が困っていることなど相談する中で、今までの支援の状況を整理し支援の方向を考えてみてはどうかとアドバイスをもらいました。



- ・イチロウさんを以前からよく知っている人や現在かわりのある人と情報交換をしてみましょう。
- ・イチロウさんへの今までの支援の状況を「個別の教育支援計画」のネットワークを活用してみてはどうでしょう。

外部機関との連携  
シリーズ参考ページ  
第3集 48ページ  
個別の教育支援計画  
シリーズ参考ページ  
第3集 70ページ

## ●イチロウさんへのよりよい支援に向け、みんなでアイデアを出し合っ

特別支援教育コーディネーターの先生に窓口になってもらい、関係機関に出かけたり、学校に来ていただいたりして、イチロウさんの生活にかかわりのある方と支援の方向について、情報交換や意見交換をしました。

### タカダさん（〇〇病院）

- ・現在行っている作業療法の内容やその意味
- ・絵、写真カードを利用したコミュニケーション支援
- ・気持ちが不安定になった時の対応



### シライさん（相談療育センター）

- ・写真や絵カードを利用した見通しのもちやすい生活
- ・気持ちが不安定になった時の対応
- ・家庭での余暇の過ごし方

### ナガシマ先生（学校）

- ・見通しのもちやすい時間割や日課の工夫
- ・写真や絵カードなど視覚的な情報を利用した支援
- ・作業療法の内容も参考にした学習
- ・気持ちが不安定になった時の対応

### 保護者（家庭）

- ・規則正しい生活リズム
- ・余暇の過ごし方の工夫
- ・気持ちが不安定になった時の対応

ナガシマ先生は困っていることで頭がいっぱいになっていましたが、連携する中でイチロウさんの伸びてきているところや頑張っていることなど、違った角度からイチロウさんのことを考えることができ、とても参考になりました。



●いただいた情報をイチロウさんの学校生活に生かして

**過剰な刺激を少なくするようにして**

- 人につかみかかるなどの不適切な行為がコミュニケーションの手段とならないように、周囲の先生は過剰に反応しないということを全職員で確認しました。
- 気持ちが不安定な時は、むやみに声をかけることをせず、静かで刺激の少ない場所（会議室、視聴覚室）に移動し、見守るようにしました。長い時でも30分ぐらいのうちには気持ちが落ち着くようになりました。
- 狭い場所に子どもたちが大勢いるような状況は、気持ちが不安定になりやすいので避けるようにしました。

**活動の終わりが目で見えて分かるようにして**

イチロウさんは、好きな活動をやめなければならぬ時や授業の途中で不安定になってしまうことがあります。それは、「どこで活動が終わりになるのか」が、分からないからではないかと考えました。

- 1時間に学習する量の教材を最初に見えるように示し、無くなれば終わりとする。
- 教科書や本を使用するときは、終わりのページに「おわり」と書いたカードをつける。
- 「時間の終わり」については、イチロウさんは、時計を見て終わりを理解することは難しかったので、好きな遊びをやめる時などは、「タイムタイマー」を使い「赤い色の部分が無くなったら終わり」とし、同時に「おわり」と書いたカードを示すようにする。



**一日の予定を絵カードで示すようにして**

- 一日の日程を、授業の時間割だけでなく、「着替え」「給食」「はみがき」などの活動も含めて絵カードを掲示するようにする。



- 毎朝イチロウさんと一緒にカードを指差しながら予定を確認するようにした。しかし、一つの活動が終わった後、次の活動へ自ら取り組むという姿になかなかつながらない。



- 掲示されたカードのどこを見ればよいか分からないのではないかと？



- 活動が終わったカードを取り外すようにして、次の活動のカードが示されるようにする。



**共に歩む**

子どもへの支援で困った時、学校生活の場面だけをとり上げて一人で考えるのではなく、その子にかかわっている保護者、地域の支援者、医療関係者などとのつながりを活用することが大切です。他の支援者と連携し、情報交換をすることによって、いろいろな角度からその子の姿を理解し合い、よりよい支援の方向を一緒に考えます。

そして、現在の学校生活でその子の実態に合わせて、支援の方法を工夫することが大切になります。話し合ったことが、そのまま生かされないケースもありますが、学校での子どもの姿をよく知る私たちが、試行錯誤しながらチャレンジしていくことが大切と考えます。



# 効果的な医療との連携

## 学校での記録をもとに医療機関と支援について考えていった事例

情緒障害特別支援学級（以下情障学級）に入級してきたヤスシさん（小2）は、自分の好きなことをしている時間は集中しているけれど、それ以外の時間は、なかなか落ち着いて学習に取り組むことができません。このようなヤスシさんをどう理解し、ヤスシさんが学習に集中できるようにするためには、どうすればよいのでしょうか。

### ● 4月、ヤスシさんが情障学級に入級してきました。

- ・好きな絵を描いている時間は、集中しています。
- ・みんなと一緒に何かやろうとしても、なかなか集団の輪の中に入ろうとしません。声を上げながら歩き回っていることがよくあります。また、一人で教室から出て行ってしまふこともよくあります。
- ・視線が定まらず、にこにこしながら首を動かしていることがよくあります。そんなときには、話しかけてもなかなかこちらへ気持ちに向けてくれません。



このような障害がある子どもに初めて出会ったタケダ先生は、どうしていいかわからず悩みました。



とにかく、記録を取ろう。

シリーズ参考ページ  
第1集 14ページ

### ● 5月、A病院小児科で受診

ヤスシさんの学校生活を心配した保護者は、スクールカウンセラーに相談したところ小児科への受診を勧められました。受診のとき、タケダ先生は学校での記録を医師に届けてもらいました。

プライバシー保護の立場から、学校での記録を外部へ出すことについては、事前に保護者や学校長の承諾を得ることが必要です。

ヤスシさんの場合は、保護者に学校での様子を参観していただき、保護者と担任が共に「ヤスシさんが、落ち着いて生活できるための支援を考えていきたい。」と同じ気持ちになりました。そこで、医療機関への資料提供の了承を得ました。

#### タケダ先生の記録

- ・給食の時間、みんなと一緒にランチルームへ行くことができません。他の子どもたちが食べ始めた頃によくランチルームへ入ってくる人が多いです。
- ・歌は好きなのですが、音楽の時間、なかなか音楽室へ行くことができません。
- ・音楽集会の時、ステージに上がり歩き回っていたので、席につくよう促すと、興奮して声を出していました。

#### 医師からのコメント

- ・ランチルームや全校集会などは、騒がしい感じがいやで中に入れないのではないのでしょうか？
- ・スムーズに移動ができないときには、**次の行動を示すカード**を作って指示してみてもどうでしょうか。
- ・一日の流れを表にして記録をしてみると、後で分析がしやすくなると思います。
- ・**行動を落ち着かせる薬が必要だ**と思いますので処方します。服薬してみても様子をもた教えてください。



### ● 医師のコメントから、タケダ先生が考えたことは・・・

薬を飲み始めて、以前よりも表情が落ち着き、こちらの話すことも聞いてくれることが多くなってきたな。次は、ランチルームへの移動について、考えてみよう。



ランチルームへなかなか入れないのは、騒がしさがいやなんだと考え、最も騒がしい配膳のときは、ランチルームへ入らなくてもいいことにしました。

それから、4時間目が終わってからランチルームへスムーズに移動できるように左のようなカードを作って示しながら声を掛けるようにしてみました。こうすることで、以前よりもランチルームに行き食べ始める時間が早くなりました。～耳から入る指示に加えて、目で見えるカードがヤスシさんには分かりやすいんだな。～



●7月に受診する時、表にまとめた記録を保護者に届けてもらいました。

タケダ先生の記録

日時	校時	教科・その他	ヤスシさんの様子・教師の対応
○月12日 (月)	1	音楽 (原学級)	行きたがらないので、今日は肩ぐるまで音楽室まで連れて行く。着席を促すと、ちゃんとすわって学習を始めた。授業後、音楽の先生から「教師の指示を聞けるようになった」と言われた。
	1	体育 (原学級)	みんなの中に入ってドッジボールをする。外野で当てたり、内野で当てられたりするが、怒ったりせず進んで楽しんでいる姿が見られた。4月以来初めてだった。
○月14日 (水)	朝	・朝の会 (「じゃんけんれっしゃ」)	「じゃんけんれっしゃ」では勝てなくて面白くなかったらしく、「じゃんけんれっしゃなんかやりたくない。」とわざと聞こえるように言ったが、こちらは聞き流すように対応していた。これでよかったのだろうか…。
○月16日 (金)	1	国語	用意してあった国語のプリントを書いていた。早くできて持ってくるが間違っていたところのやり直すよう指示したところ、涙目になっていた。もう少し易しいレベルのプリントで自信をもつようにした方がよいのかも…。

医師からのコメント

薬を飲むことで落ち着くようですので、このまま続けて服用するのがよいですね。

- ・信頼し、甘え、受け入れてもらえる体験が、情緒の安定の土台を作ります。だから、受け入れていただけた後は、安定して、怒らずにいられるのですね。
- ・ネガティブな発言は聞き流すように対応するのがよいと思います。
- ・失敗したことを繰り返すのは、自尊心を砕くことになります。これまで強い自信をもたずにきた子どもさんは、不安定でもろい自信の上に立っていますので、成功する体験を多く積ませていただきたいのです。本人の力より、少し易しい課題を用意し、「よくできた」という体験を多くさせてください。

●医師のコメントから、タケダ先生が考えたりやってみたりしたことは・・・

1. ヤスシさんの力で十分できる課題を用意しよう。

2. ネガティブな発言は聞き流すように対応しよう。

ネガティブな発言は聞き流すように対応することで、強く指導することを減らすことができました。また、ヤスシさんがよい行動に向きかけたときをとらえほめるように心がけました。

3. 機会を作って、できるだけ一緒に遊ぶようにしてみよう。

一緒に遊んでいると、とてもいい表情を見せてくれました。先生と一緒に遊びたくて、ヤスシさんの方からかかわってくることも増えてきました。人間関係を築いていく上で、まだまだ遊ぶことが必要なんだと思いました。



新しい漢字を覚える学習をするときには、ヤスシさんと相談して量を決め、2～3文字ずつにしました。



●タケダ先生の思い～ヤスシさんとの1年間を振り返って～

何とかヤスシさんが安定した学校生活を送るための糸口を見つけたい・・・という思いでとにかく記録をとっていこうと思いました。教卓の上に記録ノートだけは出しておいて、「こんなことがあって困った。」「あれ？いつもと違うな。」と思った時に、忘れないうちに書き留めました。授業が終わってすぐに、それができない時には、放課後にとにかく1～2行でも書くことにしました。

その記録を保護者の了承を得て、医師に読んでもらいアドバイスいただいたことを元に、ヤスシさんへの接し方、支援の方向を、自分なりに考え直すことができました。

また、薬を飲むことにより、ヤスシさんが落ち着いていられる時間が増え、安定した学校生活を送るための素地ができてきました。そのことにより、活動に集中できる時間が増え、ヤスシさん自身が、自信をもって取り組むことのできる活動が少しずつ増えていきました。



共に歩む

情緒的に不安定な状態が続く、学校での活動がうまくいかない時、医療との連携を考える必要があります。このケースでは、スクールカウンセラーの助言により、医療機関へ受診することになり、服薬することで、安定した学校生活を送るための素地ができてきました。

また、医師からのコメントをかみ砕き、いかにその子の学校生活の中に生かしていくか検討し、実行していくことが教師としての大切な役割です。

家庭や医療機関と連携していく上で、基本となるのが日々の記録です。毎日、わずかな時間でも、忘れずに記録をとることで、その子の特徴やよさを見直すこともできます。

# 子どもへの理解を深めながら行う進路選択

～ 外部機関の利用や体験入学を通して ～

特別支援学級に在籍しているエミコさん。保護者は、エミコさんの障害を受容できずに、中学3年生になっても将来の進路の方向が定まらないうままにいました。エミコさんは不安定になり授業に集中できない状態が続いています。ミツイ先生は、生徒の実態を保護者にどのように理解してもらえばよいか悩んでいます。

## ●卒業後の進路，父親とエミコさんの希望にずれがありミツイ先生は困っています

父親は高校進学，エミコさんは養護学校高等部進学を希望

<母親の悩み>

私は、エミコさんの希望を尊重したいのですが、お父さんに気を遣いどうしたらよいか悩んでいます。

懇談

<ミツイ先生>

エミコさんは、授業中に「ボー」としていることが多くなってきました。私も心配なので、校内の先生方にも相談してみます。

校内委員会を開き，養護教諭から外部相談機関を紹介されました。



## ●担任は，保健所や病院などに相談することをすすめました

<母親>

エミコは、これからどんな進路を考えたらよいか心配です。

懇談

<父親>

エミコに障害があることが分かりましたが、どのような進路をとったらよいかを先生と相談したいです。高校へは、行かせたいと思っています。



<エミコさん>

病院の先生にお話を聞いてもらってよかった。これからの進路，どうしたらよいか？



<ミツイ先生>

お父さんも一緒に保健所や病院に行っていたことは、大変有意義なことです。これから高校見学や養護学校体験入学もありますので、お父さんも是非参加して、その学校の授業内容や、その学校でのエミコさんの活動の様子を見てください。

## 保健所と医療機関を受診して

保護者と話をし、保健所でカウンセリングを受けることにしました。カウンセリングをした後、A病院を紹介され保護者とエミコさんは受診をしました。いろいろな検査を行い、エミコさんには発達に障害があることが、保護者に伝えられました。父親はそれまで障害について深く理解をしていませんでしたが、初めてエミコさんに障害があることがわかりました。それでも、高校へ進学をさせたいという父親の気持ちに変わりはありませんでした。

●B高校見学とC養護学校高等部の体験入学をしました

<母親>

高校の勉強は、エミコがついていけるか心配です。養護学校は、作業学習など、楽しそうに活動していました。養護学校なら、本人も活動していけそうかな？

<父親>

両方の学校を見学しました、まだ迷っています。将来のことを考えて、どうしたらよいかを、家族で話し合いたいと思います。

<エミコさん>

私は高校の勉強では、内容が難しく、プレッシャーかな…  
やっぱり、養護学校へ行きたいです。

懇談

<ミツイ先生>

2つの学校で体験入学を行いました。エミコさんの活動の様子を参観した感想は、いかがですか？エミコさんの将来のことを考えて、家族で話し合ってください。エミコさんは、お家の方に自分の進路の希望や、自分の気持ちを伝えてください。11月中に、もう一度懇談会を行い、進路の方向を具体的にしていきたいと思います。



●進路が決まり、明るさを取り戻したエミコさん

<母親>

両方の学校を見学しました。エミコの希望通り養護学校へ行く方向で考えたいと思います。お父さんの気持ちも変わり、エミコも喜んでいきます。これで、やっとわたしも安心しました。



<父親>

病院のカウンセリングや学校見学をして、学校の様子も分かりました。ミツイ先生のお話を元に家族でエミコと話し合いましたが、将来のことや本人の気持ちを第一に考えて、養護学校への進学をお願いします。



<エミコさん>

養護学校は、先輩もいるので、心強いな。お父さんも賛成してくれてよかった。



懇談

<ミツイ先生>

エミコさんの、進路の方向が決まって良かったです。エミコさんは、これからC養護学校へ進むための学習の準備をしていきたいと思います。お家の方も、エミコさんを励ましていってください。



共に歩む

進路に関して、保護者と子ども、学校の意見がなかなか折り合わないことがあります。その場合、保護者が子どもの障害を受け入れることができずにいることが原因になっていることもあります。

このケースでは、校内委員会や担任からのアドバイスで外部相談機関を受診し、障害について保護者の理解を得ることができました。また、複数の学校で体験学習を行い、入学後の生活をイメージしながら学校を選択しました。保護者も本人も納得して学校を選ぶことができました。

保護者と学校と子どもの状態について共通理解し、子どもの将来を見据えた上で、本人の希望と重ね合わせて、進路を選択していくことが大切です。

# 小学校と中学校をつなぐ交流会

～安心して中学校に進学するために～

特別支援学級に在籍する児童の中には、中学校に進学することに強い不安を訴えることがあります。場合によっては、中学校入学後に不登校などの二次的な障害を招いてしまうこともあります。これは、安心して中学校に進学するために、交流会や体験入学などを活用した事例です。

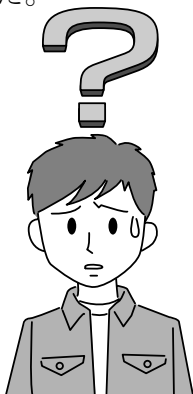
## ●中学校進学に向けて、タカシさんの悩み

タカシさんは、小学校の特別支援学級に在籍している6年生です。小学校では、休み時間になると原学級の友だちが特別支援学級に遊びにやってくるなど交流が盛んです。原学級の学級担任や友だちとの関係もとても良好です。

ある日、タカシさんは、特別支援学級担任のサトウ先生に中学校に進学することへの不安を訴えました。サトウ先生は、タカシさんの不安の原因を一緒に探っていきました。すると、タカシさんは、次のことを心配していることがわかりました。

中学の先輩は、どんな人たちだろう。怖かったらいやだな。

小学校と生活や勉強のしかたが違うのかな。



タカシさん

ぼく、原学級の友だちと仲良くなれるかな。

中学校の特別支援学級には、どんな友だちがくるのかな？

## ●中学校区の特別支援学級担任者会で相談

タカシさんが進学する中学校は、3つの小学校から生徒が集まってきます。

サトウ先生は、関係する学校の先生方に、タカシさんの悩みなどを相談してみました。すると、他の小学校の先生方から、タカシさんのように中学校進学に対して不安を感じている児童や保護者がたくさんいるということがわかりました。

私の学級のカオリさんも不安を訴えているよ

新しい環境に慣れておく必要があるね

中学校の先生にも児童の姿を知ってほしいね



私のクラスのタロウさんは、新しい人たちの前だと緊張して喋らなくなるんだよね

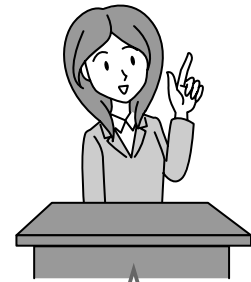
通常の学級に在籍する生徒が中学校に進学して混乱することなく過ごせるためには、特別支援教育コーディネーターを中心とした小中学校間の連携などが必要です。そのための方法については、シリーズ第3集 52ページ～53ページ 68ページ～69ページなどをご覧ください。

サトウ先生たちは、このような児童や保護者の不安を解消し安心して中学校に進学ができるように、中学校と中学校区の小学校の特別支援学級が1年間を通して交流会や特別支援学級への体験入学、担任による授業見学、保護者見学会などをおこなう計画をたてました。



●特別支援学級 小中連携にかかわる1年間の活動

月	内 容	会 場
4	自己紹介をしよう。[交流会]	中学校
5		
6	カレーを作ってみよう。[交流会]	A小学校
7		
8	一日キャンプに出かけよう。[交流会・社会見学]	キャンプ場
9	中学校の文化祭を見学しよう。[学校見学]	中学校
10	中学校見学会 中学の授業を見てみよう。[保護者参観]	中学校
11	体験入学会① 生活単元学習に参加しよう。	中学校
12	クリスマス会をしよう。[交流会]	B小学校
1	体験入学会② 教科学習に参加しよう。	中学校
2	お別れ会をしよう。[交流会]	C小学校
3	特別支援学級担任者連絡会〔反省と来年度の計画〕	中学校



会場校の校長先生や教頭先生、養護教諭、生徒指導の先生も交流会を見に来て欲しいですね。

**交流会のポイント1 会場校は持ち回りにしました。**

交流会の会場校は持ち回りにしました。これは、友だちがどのような環境で生活しているのかをお互いに理解しあうためにも大切です。

**交流会のポイント2 交流会は、中学生、小学生混合のグループをつくる**

児童生徒にとっては、楽しい一日になると同時に、友だちに慣れるということからも混合グループにしました。最初は緊張もありますが、やさしい中学生の先輩を知り、安心して交流会に参加できるようになります。集団参加が苦手な児童生徒には、一人になれる場面や場所も必要です。

**交流会のポイント3 多くの先生方に参加してもらいましょう。顔合わせをしましょう。**

特に中学校では、来年または今後入学してくる生徒の実態を多くの職員に理解してもらうためにも、先生方を交流会に招待しましょう。校長先生や教頭先生が児童の実態を知っているということは、中学校進学後の支援体制作りなどに有効です。また、進学してくる児童にとっても中学校の職員の顔を知っているということは安心にもつながります。

**体験入学のポイント 体験入学は「楽しい」という気持ちを大切に。**

体験入学では、説明だけでなく、実際に授業に参加してもらいました。特に教科学習への参加では、あらかじめ小学校の担任と相談して、解きやすい問題を用意して、「中学の授業も楽しい」という印象を持ち帰ることができるように配慮します。体験入学の感想でも「よかった。安心した」というコメントが多く寄せられます。

●入学後の姿から

中学校では、交流会でタカシさんの様子を見た先生方の意見を取り入れながら、原学級の学級編制をして、タカシさんを迎えました。タカシさんは、交流会で馴染みのある先輩たちや校舎に対して大きな抵抗感もなく中学校生活のスタートをスムーズに切り、溶け込むことができました。



**共に歩む**

中学校に進学する児童は、見知らぬ世界にたくさんの不安を抱えています。交流会を通して、友だちのことや学校のことを知り、中学校入学に備えていくことができます。そして、児童生徒だけでなく職員同士も交流が深まり互いに相談ができるようになると、入学後にトラブルが起きた場合も小学校の担任から情報や対応策を受け取りながら対応ができます。その結果、不登校などの二次的な障害を予防することにもなり、生徒にとって学校が楽しい場所へとつながっていきます。

そして、小中学校が一緒になって活動を長く続けていくコツは、簡単にできることを毎回積み重ねていくことだと思います。

# 特別支援教育の推進のための 学校教育法等の一部改正について（概要）

## 趣旨

児童生徒等の障害の重複化に対応した適切な教育を行うため、現在の盲・聾・養護学校から障害種別を超えた特別支援学校とするなどの改正を行う。

## 概要

### 学校教育法の一部改正

- ・盲学校，聾学校，養護学校を障害種別を超えた特別支援学校に一本化。
- ・特別支援学校においては，在籍児童等の教育を行うほか，小中学校等に在籍する障害のある児童生徒等の教育について助言援助に努める旨を規定。
- ・小中学校等においては，学習障害(LD)・注意欠陥多動性障害(ADHD)等を含む障害のある児童生徒等に対して適切な教育を行うことを規定。

### 教育職員免許法の一部改正

- ・現在の盲・聾・養護学校ごとの教員免許状を特別支援学校の教員免許状とし，当該免許状の授与要件として，大学において修得すべき単位数等を定めるとともに，所要の経過措置を設ける。

### その他の関係法律の一部改正

- ・特別支援学校の創設及び特殊教育を特別支援教育に改めることに伴い，関係法律について所要の規定の整備を行う。

## 施行期日

- ・平成19年4月1日

# 支援情報

## 特別支援教育相談



県教育委員会では、障害のあるすべての子どもに対する支援の充実を図るために「特別支援教育相談」を実施しています。以下の機関の担当者にご相談ください。

### <手続き>

- ①随時、電話で申込
  - ②相談日時、場所等を打合せ
  - ③教育的支援の開始
- ※電話相談も受け付けています。

### <支援の内容>

- ①障害のある子どものアセスメントとその理解
- ②個別の指導計画の作成
- ③授業等における有効な支援方法、教材・教具づくり
- ④校内支援体制の構築、関係諸機関との連携
- ⑤保護者支援
- ⑥就学相談 —— 等

### 特別支援学校

教育相談担当教員等

長野盲学校	026-243-7789
松本盲学校	0263-32-1815
長野ろう学校	026-241-5320
松本ろう学校	0263-58-3094
長野養護学校	026-296-8393
伊那養護学校	0265-72-2895
松本養護学校	0263-59-2234
上田養護学校	0268-35-2580
飯田養護学校	0265-33-3711
安曇養護学校	0261-62-4920
小諸養護学校	0267-22-6300
飯山養護学校	0269-67-2580
諏訪養護学校	0266-62-5600
木曾養護学校	0264-22-3553
花田養護学校	0266-28-3033
稲荷山養護学校	026-272-2068
若槻養護学校	026-295-5060
寿台養護学校	0263-86-0046

### 総合教育センター

生徒指導・特別支援教育部  
担当専門主事

生徒指導・特別支援教育部 0263-53-8805

### 教育事務所

特別支援教育担当指導主事

佐久教育事務所(教育相談)	0267-63-3182
飯田教育事務所(教育相談)	0265-53-0462
松本教育事務所(教育相談)	0263-47-7830
長野教育事務所(教育相談)	026-232-7830

### 特別支援教育課

特別支援教育地域化主任推進員

#### <東北信地区>

特別支援教育課 026-235-7456

#### <中南信地区>

松本盲学校 0263-36-9515(直通)

※幼・保の教育相談・就学相談を中心にを行います。

## 障害者総合支援センター

10圏域ごとに障害者総合支援センターが設置されています。障害のある児者が地域で安心して生活できるように、関係機関と連携して地域に根ざした支援を行っています。療育コーディネーター等が、面接・電話・訪問等により相談支援を行います。

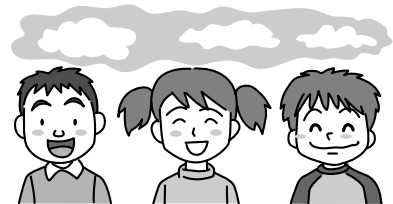
●:中核センター  
○:その他のセンター

圏域	機関名	電話	設置場所
佐久圏域	●障害者総合支援センター「こころん」	0267-63-5177	佐久市取出183 佐久市野沢会館内
	○療育支援センター「ひだまり」	0267-22-5545	小諸市塩野上大宮1-88
	○NPOたんと	0267-68-7977	佐久市長土呂587-6
	○障害者生活支援センター	0267-68-1006	佐久市猿久保331
上小圏域	●障害者総合支援センター中央センター	0268-27-2084	上田市中央3-5-1 ふれあい福祉センター2階
	○地域生活支援センター「やすらぎ」	0268-25-2000	上田市住吉167-1 住吉センター
諏訪圏域	●障害者総合支援センター「ばすてる」	0266-54-7363	諏訪市小和田19-3 諏訪市総合福祉センター1階
上伊那圏域	●障害者総合支援センター	0265-74-5627	伊那市伊那1499-7 希望の家内
飯伊圏域	●障害者総合支援センター	0265-24-3182	飯田市上郷黒田341 上郷保健センター内
	○飯田市療育センター「ひまわり」	0265-23-6097	飯田市松尾新井5933-2
	○障害者自立支援センター「ハーネット・いいだ」	0265-56-4474	飯田市東栄町3108-1
	○地域生活支援センター	0265-56-8732	飯田市箕瀬町2-2561-4
木曾圏域	●障害者総合支援センター「ともに」	0264-52-2494	上松町荻原1460 上松荘内
松本圏域	●障害者総合支援センター「wish」	0263-26-1313	松本市双葉4-8 社会福祉センター別館
	○障害者自立センター「ピアネット21」	0263-27-7211	松本市双葉4-16 社会福祉センター内
	○地域生活支援センター「燦メンタルクラブ」	0263-39-4624	松本市城西1-9-2
	○相談療育センター「あいあい」	0263-64-1161	松本市刈谷原町759-1



松本圏域	●障害者総合支援センター「あるぷ」	0263-73-4664	安曇野市豊科4156-1
大北圏域	●障害者総合支援センター「スクラムネット」	0261-26-3855	大町市大町1129 総合福祉センター内
長野圏域	●障害者総合支援センター	026-285-1900	長野市川中島町今井1387-5 ハーモニー桃の郷内
	○障害者自立支援センター「マイ・ステップ」	026-268-0666	長野市鶴賀栗田1038-8 ゆたかビル1階
	○稲荷山医療福祉センター	026-272-1435	千曲市野高場1835-9
	○障害者総合支援センター「歩楽里」	026-257-5955	長野市豊野町蟹沢2600-1
	○長野就労支援センター森と木「ベターデイズ」	026-259-9970	長野市平林163-5
	○地域生活支援センター「スローステップ」	026-295-3077	長野市徳間3222
	○地域生活支援センター「はばたぎ」	026-285-5304	長野市川中島町今井1387-5 ハーモニー桃の郷内
	○地域生活支援センター「希来里」	026-267-5685	長野市稲葉147-5
	○地域生活支援センター「皆神ハウス」	026-278-7466	長野市皆神台157
	○ワークスペース夢工房	026-248-3741	須坂市本上町1380
北信圏域	障害者総合支援センター	0269-23-3525	中野市笠原765-1

## 自閉症・発達障害支援センター



県内で暮らしている自閉症の方が、それぞれの特性を理解された上で、暮らしの地域の中で必要な支援を受けることができる支援体制づくりを目指しています。医師、臨床心理士、作業療法士、言語聴覚士等が予約制で相談支援を行っています。

機関名	電話	設置場所
自閉症・発達障害支援センター	026-227-1810	長野県精神保健福祉センター内

※中南信地区の活動拠点は県立こども病院内に設置

# 平成18年度 研究委員会

## 研究委員

◎ 委員長

○ 副委員長

佐藤 春夫	立科町立立科小学校	小林 法子	上田市立南小学校
小林 邦彦	上田市立第二中学校	宮坂 玲子	茅野市立玉川小学校
橋本 幸江	飯田市立竜東中学校	鏡味 洋子	松本市立丸ノ内中学校
西澤 康恵	松本市立筑摩野中学校	○浅原 昭久	白馬村立白馬南小学校
◎永井 克昌	長野市立後町小学校	大日方浩子	長野市立信田小学校
○片山ますみ	長野市立櫻ヶ岡中学校	内田 潤一	長野養護学校
竹松 恵子	伊那養護学校	青木 高光	上田養護学校
○松嶋 則行	安曇養護学校		

## 長野県教育委員会

赤塚 正一	総合教育センター生徒指導・特別支援教育部	専門主事
清水 閣成	佐久教育事務所	主任指導主事
伊藤 潤	飯田教育事務所	指導主事
岸田 優代	松本教育事務所	指導主事
土屋 雅弘	長野教育事務所	指導主事
高橋 英一	特別支援教育課指導係	主任指導主事
片桐 俊男	特別支援教育課指導係	指導主事
高山 和浩	特別支援教育課指導係	指導主事
五味 重栄	特別支援教育課指導係	指導主事

特別支援教育シリーズ第1集

## 一人にひかり みんなのかがやき

平成19年1月25日印刷

平成19年2月1日発行

長野県教育委員会

連絡先

TEL 026-235-7456

FAX 026-235-7459

E-mail tokubetsu-shien@pref.nagano.jp

HPアドレス <http://www.nagano-c.ed.jp/kenkyoi/>

# 平成18年度 研究委員会

## 研究委員

◎ 委員長 ○ 副委員長

佐藤 春夫	立科町立立科小学校	小林 法子	上田市立南小学校
小林 邦彦	上田市立第二中学校	宮坂 玲子	茅野市立玉川小学校
橋本 幸江	飯田市立竜東中学校	鏡味 洋子	松本市立丸ノ内中学校
西澤 康恵	松本市立筑摩野中学校	○浅原 昭久	白馬村立白馬南小学校
◎永井 克昌	長野市立後町小学校	大日方浩子	長野市立信田小学校
○片山ますみ	長野市立櫻ヶ岡中学校	内田 潤一	長野養護学校
竹松 恵子	伊那養護学校	青木 高光	上田養護学校
○松嶋 則行	安曇養護学校		

## 長野県教育委員会

赤塚 正一	総合教育センター生徒指導・特別支援教育部	専門主事
清水 閣成	佐久教育事務所	主任指導主事
伊藤 潤	飯田教育事務所	指導主事
岸田 優代	松本教育事務所	指導主事
土屋 雅弘	長野教育事務所	指導主事
高橋 英一	特別支援教育課指導係	主任指導主事
片桐 俊男	特別支援教育課指導係	指導主事
高山 和浩	特別支援教育課指導係	指導主事
五味 重栄	特別支援教育課指導係	指導主事

## 特別支援教育シリーズ第1集 一人にひかり みんなのかがやき

平成19年1月25日 印刷  
平成19年2月1日 発行

編集者 長野県教育委員会  
印刷所 信教印刷株式会社

発売所 株式会社 しんきょうネット

長野市旭町1098  
電話 026-233-1135  
振替口座 00570-1-61289